谷原菜摘子

Natsuko Tanihara

MEM

NADiff A/P/A/R/T 3F, 1-18-4, Ebisu, Shibuya, Tokyo 150-0013
Tel.+81(0)3-6459-3205
E-mail: art@mem-inc.jp http://www.mem-inc.jp

現代の「浮世」絵師　－谷原菜摘子の絵画－

国立国際美術館学芸課長兼副館長
中井 康之

「美術」と「死」は常に隣り合わせの関係を維持してきた。絵画の主たる出自は宗教画であり、彫刻と共に、亡き者の表象として、そして来世をも支配する神の似姿として存在してきた。近代という時代が到来し、「神の死」が謳われ、そのような神話を表出する装置としての役割を果たすことも漸減するが、美術作品に対する新たな意味付けの要因となったのはシュルレアリスムのような人々の意識下に潜んだ世界を顕現する動向だった。そのような見えない何ものかを表そうとする美術作品は、フォーマリズムに代表されるような理知的で表面的な世界によって価値付けされる進歩主義的動向に対して、歯止めをかけるような役割を常に果たしてきた。

但し、この日本に於いては、さらにもう一つの系譜を認めることができるかもしれない。生まれた翌年、父荒木村重の信長に対する謀反によって、年若い母も一族とともに虐殺されるなか、奇跡的に生き存えた岩佐又兵衛が描いた絵図を一つの源流とする「浮世絵」という風俗画の系統である。又兵衛は一族滅亡後、信長の息子・織田信雄の近習小姓役として仕えた。文芸や画業などの諸芸を披露する御伽衆のような存在だったという。信雄の改易後、浪人となり京都で絵師として活動を始める。40 歳の頃、福井藩主・松平忠直に招かれ、その息子忠昌の代まで愛顧を受けて 20 年程を福井で暮らし、多くの作品を残した。又兵衛の傑出した代表作《山中常盤物語》も、その福井時代に描かれたと推定されている。

同絵巻は、当時人気のあった人形浄瑠璃の演し物を題材としていた。その演し物は、常盤御前が平泉にいる牛若丸を訪ねる旅の途中「山中の宿」で盗賊に殺され、牛若丸がその仇を討つという筋書きである。全 12 巻、全長 150m にも及ぶその絵巻を夙に有名にしているのは、常磐御前が賊に襲われる凄惨な場面である。常盤の黒髪を手に巻きつけ刀を突き刺して、白い柔肌に赤黒く流れる流血場面は、ハリウッドのスプラッター映画に負けず劣らずの衝撃的な情景である。幼子の又兵衛が、自らが遭遇した場面を記憶していたとは考え難いが、周囲の者から聞かされてきた自らの生い立ちを、人形浄瑠璃物語の主人公に重ねて、感情移入したような表現になったと考えることもできる。自らの母の惨殺場面を再現するという自虐的行為を、自己の存在証明とするかのような鬼気迫る表現は、見る者の心臓を抉り取るかのような禁断の光景なのである。

少し又兵衛に深入りし過ぎていると思われるかもしれない。しかしながら、谷原菜摘子の作品と最初に対面した時に感じた、魅惑的でありながらも、そこはかとなく暗いイメージ抱かせる画像が、その又兵衛が描く凄惨な場面の絵図を私に想起させたことは事実である。それ故、これまで又兵衛の画業を簡略に素描してきた。

それでは次に、谷原作品との邂逅した経緯を語らなければならないだろう。4 年程前、「はならぁと」という奈良県の地域アート・プロジェクトを訪問し、点在する複数箇所の会場を渡り歩いた。その折り、生駒宝山寺参道地域の旧たき万旅館という廃屋となった巨大な施設跡を最後に訪れた。同会場に辿り着く前には、郡山城下町地域の旧川本邸という旧遊郭にも足を運んでいた。その遊郭の狭隘な薄暗い空間の連なりの記憶が残ったまま、夕刻の暗がりの中、その廃屋となった旅館の客間に足を踏み入れたのである。そのような偶発的とはいえ舞台設定が整った上で、谷原の作品群と出会ったのである。中でも目を引いたのは、火の付いた円陣の前に、少しはだけた白い衣服を纏った少女が座り、その絵を見る者を見返すような図像が描かれていた作品だった。私はその静寂の中にも底知れぬ精神の闇を見せつけるような画像に引き込まれた。他にも、暗い林の中を彷徨う裸身の男、暗い竹林の中で遊女と共に少女、暗い公園で裸身の少女が火を吐いている画像等、数多くの作品が犇めいていた。谷原の作品はビロード状の黒い画面を基底材としている。その表現素材の選択も相乗的な効果を生み出し、描かれた少女の暗く錯綜した心情を確かに表し出していた。付言すれば、それらの描かれたイメージは、描き手である谷原の痛々しい記憶が紡ぎ出したものであることも容易に想像された。思い返してみれば、その自傷的ともいうべき表現が、先に記してきた「山中の宿」の凄惨な惨殺場面を描き出した岩佐又兵衛の作品を連想させたのである。

さて、風俗画の系譜である。日本では、早くは桃山時代に狩野派の遊楽図等がみつけることができるが、徳川幕府の体制が確立し、泰平の世の到来に伴って町衆と称される一般市民階級にも楽しむための絵画のジャンルとして急速に広まっていったのである。時に《彦根図屏風》等に描かれた自由な振る舞いを見せる男女の遊興図に、平安の世から用いられている仏教的厭世感にもとづく「憂世」「浮世」という言葉があてがわれるようになるのだが、このような「ままならぬ憂世」と「浮かれて楽しむ」「浮世」を掛け合わせた表現を江戸時代初期に打ち出したのが、この岩佐又兵衛なのである。さて、これ以上詳述する余地は無く、端折るより仕方ないのだが、要するに「死」の影を含んだ「風俗画」としての「浮世絵」を生み出した又兵衛の精神を、谷原菜摘子は隔世遺伝的に受け継ぎ、その嫡子としての道を着実に歩み始めたものとして、その画業を捉えることができるだろう。今浮世絵師としての谷原と我々は出遭ったのである。



汝、如何にして其の罪を償わん
how do you compensate for the sin?

ベルベットに油彩、アクリル、金属粉、グリッター、ラインストーン、スパンコール
oil, acrylic, metal powder, glitter, rhinestone, spangles on velvet
193×210cm, 2014



この世の中に愛しき者も欲すべき物も

ベルベットに油彩、アクリル、金属粉、グリッター、ラインストーン、スパンコール
oil, acrylic, metal powder, glitter, rhinestone, spangles on velvet
181×181cm, 2013



無垢なものへの葬送歌
Funerary Songs for the Innocents

ベルベットに油彩、アクリル、オイルパステル、金属粉、グリッター、マニキュア、スパンコール
Oil, acrylic, oil pastel, metal powder, glitter, manicure, spangles on velvet

73 × 600cm, 2013



私は未だ地獄にいる
Still in Hell

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター
Oil, acrylic and glitter on velvet
181.8 × 227.3 cm, 2013



大学在籍時のアトリエ



接吻
The Kiss

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、ラインストーン
oil, acrylic, glitter, rhinestone on velvet
100×83cm, 2016



ファントムを見た（永遠を手放せない）
I Saw the Phantom (I can't Leave Eternity)

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター
oil, acrylic, glitter on velvet
194×130.3cm, 2016



結婚式
Paper Wedding

ベルベットに油彩、アクリル、金属粉、グリッター、ラインストーン、スパンコール
oil, acrylic, metal powder, glitter, rhinestone, spangles on velvet
193×130.3cm, 2015



Paper Wedding

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター
oil, acrylic, glitter on velvet
42×29.7cm, 2018



穢土
This impure world

ベルベットに油彩、アクリル、金属粉、グリッター、ラインストーン、スパンコール
oil, acrylic, metal powder, glitter, rhinestone, spangles on velvet
254.2×340cm, 2015



I am not female

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター
oil, acrylic, metalpowder, glitter, spangles, rhinestone on velvet
130x162cm, 2016



SADO

ベルベットに油彩、アクリル、金属粉、グリッター、ラインストーン、スパンコール
oil, acrylic, metalpowder, glitter, spangles, rhinestone on velvet
130×193cm, 2015



bye-bye PARADISE

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、ラインストーン
oil, acrylic, glitter, spangles, rhinestone on vervet
194×390cm, 2016



Family Portrait

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、ラインストーン
oil, acrylic, glitter, spangles, rhinestone on vervet
162×390cm, 2017



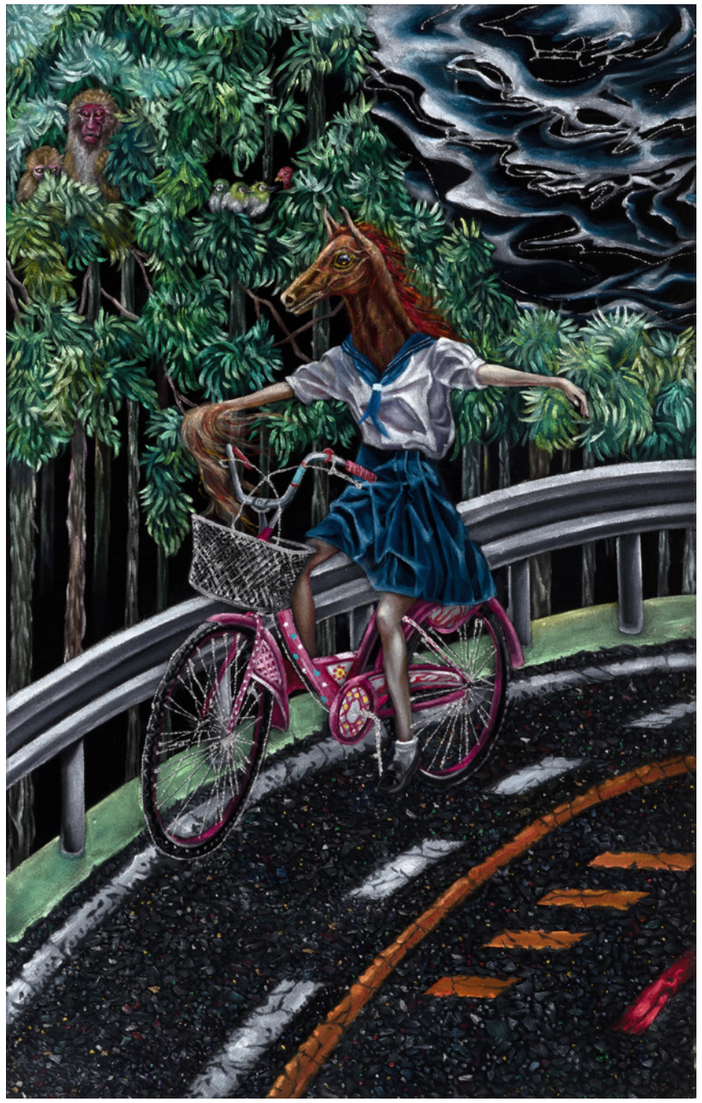
ぱぱが神様になったので
Because Papa Became God

ベルベットに油彩、アクリル、オイルパステル、金属粉、グリッター、ラインストーン、スパンコール
Oil, acrylic, oil pastel, metal powder, glitter, rhinestone, spangles on velvet
193×260cm, 2014



贖罪
Atonement

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、ラインストーン、オイルパステル、樹脂
oil, acrylic, glitter, oil pastel, resin on velvet
145.5×97cm, 2019



オシラサマ
Oshirasama

ベルベットに油彩、グリッター
oil, glitter on velvet
54.4×33.3cm, 2019



あなたが行けるところまで
I follow you wherever you go

ベルベットに油彩、グリッター、オイルパステル
oil, glitter, oil pastel on velvet
73×52cm, 2019



あなたが行けるところまで
I follow you wherever you go

紙にパステル
pastel on paper
39.5×27.2cm, 2019



何も見えない
I can’t see anything

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、ラインストーン、スパンコール
oil, acrylic, glitter, rhinestone, spangles on velvet
45.6×38.3cm, 2019



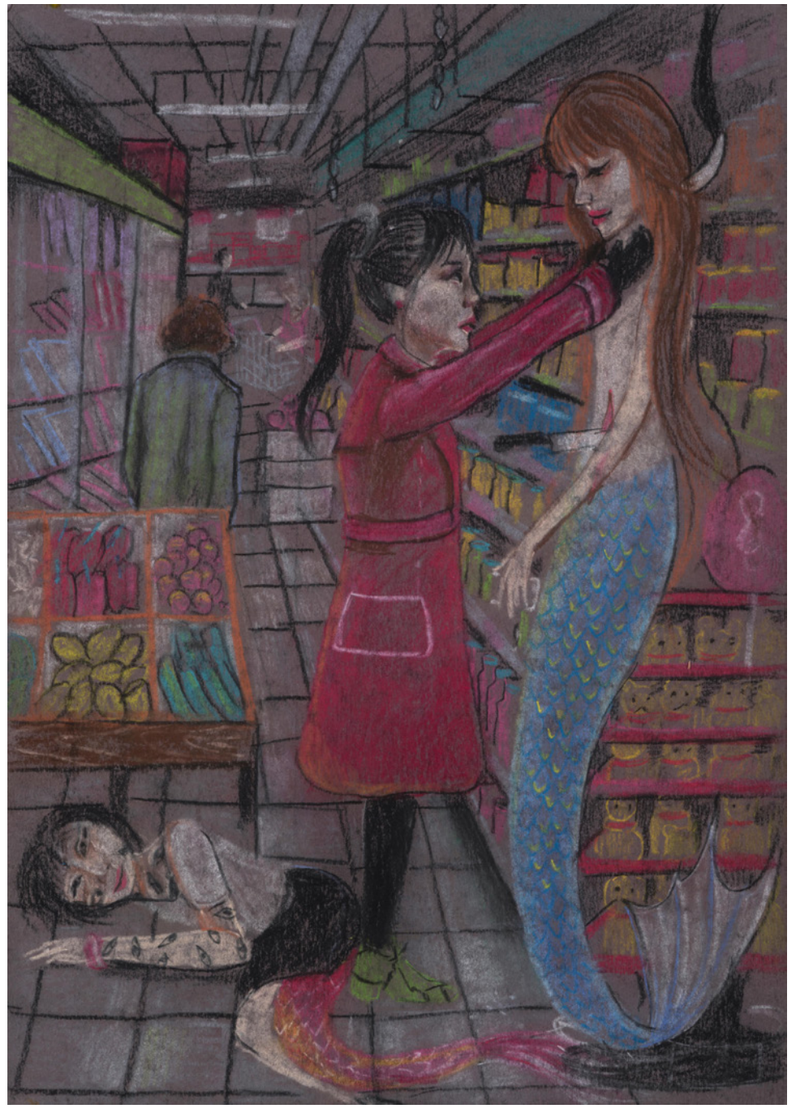
あれから愛が見つからない
I haven’t found love since then

ベルベットに油彩、グリッター
oil, glitter on velvet
73×61cm, 2017



審判
Judgment

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、オイルパステル、ラインストーン、スパンコール、金
Oil, acrylic, glitter, oil pastel, rhinestone, spangles, gold leaf on velvet
194×130.3cm, 2019



審判
Judgment

紙にパステル
pastel on paper
29.5×20.9cm, 2019



トワイライト
Twilight

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、ラインストーン、金箔
oil, acrylic, glitter, rhinestone, gold leaf on velvet
170×120cm, 2019



トワイライト
Twilight

紙にパステル
pastel on paper
154.2×79cm, 2019



私はどこへ行けば救われるのか
Where am I saved?

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター
oil, acrylic, glitter on velvet
53×41cm, 2020



棘が生えた女と散歩する
Taking a walk with a woman with spines

紙にパステル
pastel on paper
27.2×39.5cm, 2019



春の庭
Spring Garden

紙にパステル
pastel on paper
27.2×28.3cm, 2019



春の庭
Spring Garden

ベルベットに油彩、グリッター
oil, glitter on velvet
24.5×24.5cm, 2020



まつろわぬもの 2
MATSUROWANU-MONO 2

紙にパステル
pastel on paper
27.2×39.5cm, 2019



まつろわぬもの 3
MATSUROWANU-MONO 3

紙にパステル
pastel on paper
27.2×32cm, 2019

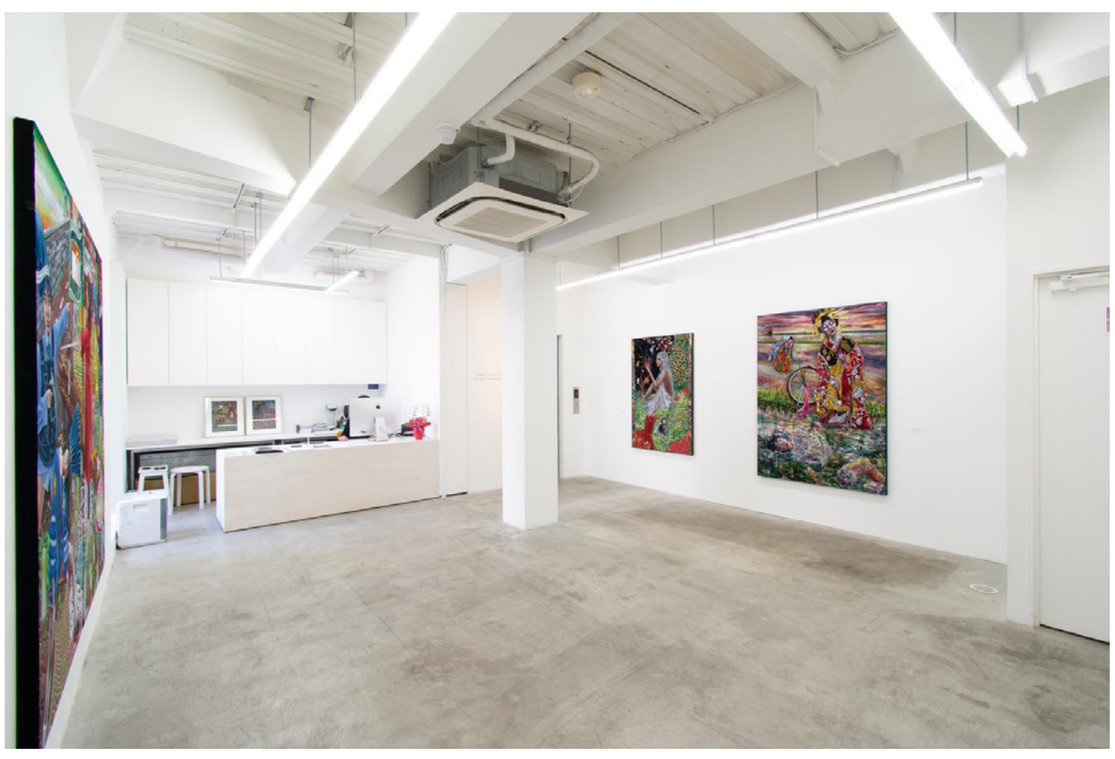


まつろわぬもの
MATSUROWANU-MONO

ベルベットに油彩、アクリル、ラインストーン、グリッター、オイルパステル
oil, acrylic, rhinestone, glitter, oil pastel on velvet

180×200cm, 2019





谷原菜摘子展「まつろわぬもの」
会期｜ 2019 年 10 月 15 日 (火) – 11 月 10 日 (日)
会場｜ MEM





谷原菜摘子展「まつろわぬもの」
会期｜ 2019 年 10 月 15 日 (火) – 11 月 10 日 (日)
会場｜ MEM



星を頂戴
Give Me A Star

ベルベットに油彩、アクリル、ラインストーン、グリッター、オイルパステル
oil, acrylic, rhinestone, glitter, oil pastel on velvet
130.3×194cm, 2020



新説竹取物語 – 邂逅 –
Encounter - New Theory of Taketori Monogatari (The Tale of the Bamboo Cutter)

ベルベットに油彩、グリッター
oil, glitter on velvet
45.5×45.5cm, 2020



子どもの頃の思い出
Memories of Childhood

ベルベットに油彩、グリッター
oil, glitter on velvet
53×41cm, 2020



Midnight Walk

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター
oil, acrylic, glitter on velvet
36.4×51.6cm, 2020

五島記念文化賞　美術新人賞研修帰国記念
谷原菜摘子展「紙の上のお城」

会　期｜2021年5月26日（水）－6月20日（日）
会　場｜MEM
時　間｜13：00 － 19：00
定休日｜月曜日
電　話｜03-6459-3205
主　催｜公益財団法人東急財団

谷原菜摘子が五島記念文化賞美術新人賞を受賞しフランスへ1年間研修滞在した成果報告展として、上野の森美術館ギャラリーとMEMの二会場で展覧会を開催いたします。
上野の森美術館ギャラリーでは、渡仏中に取材を繰り返して得た知見をもとに帰国後制作した新作《創世記》(2021)、渡仏前の代表作としてVOCA奨励賞も受賞した《穢土》(2015)等大型の油彩作品を中心に展示いたします。MEMでは、渡仏中から描き続けているパリの市井の人々のポートレートをはじめとする新作のパステルドローイングをまとめて展示いたします。

谷原はフランス滞在中に積極的に周辺諸国を巡り、以前から関心を抱いていた北方ルネサンスなどの古典作品や、第一線で活躍する現代作家の作品等、これまで画集や資料でしか見ることのできなかった作品を実際に観ることに時間を費やしました。現在まで脈々と継がれる欧州の名作から受けた「刺激」が、作家に「自身の絵画とは何か、どうあるべきか」という根源的な問いに向かわせることになり、渡仏は作家のターニングポイントとなりました。帰国後は、「これが現在の自分の絵である」という確かな実感と「何を描いても良い、如何なるものを描いてもそれが自分の作品になる」という強い確信を得るに至ったといいます。ベルベットに油彩、紙にパステルという表情の違う作品群を二会場で展示します。ぜひ両会場、併せてご覧ください。

「うきよの画家」

私は2017年から1年間、五島記念文化財団（現東急財団）の助成を得てパリに滞在した。パリを滞在の地に選んだのは美と醜、光と闇が凝縮された土地ではないかと考えたからである。
滞在初日、空港から契約したアパートに向かう道中、大規模なデモに巻き込まれた。集まった人々の怒号、彼らが投げ捨てた大量のゴミ、それらから発せられる臭気を体感し、日本では感じ取ることができなかったある種の熱の渦の中に自分はいると思った。翌日、マカロン屋や高級な洋服や装身具を売る店先にへばり付いたゴミや汚物、ショーウインドを覗く着飾った観光客と物乞いをする路上生活者といった、貴賤際立つ状況や事物がたちが違和感なく景色に溶け込んでいるのを見て、パリを滞在地に選んだのは正解だったと確信した。
パリを中心とした欧州の美術館、ギャラリー、建築物を取材しその壮麗さに魅了されたことも、路上で暴言を吐かれ恐喝されたことも、全ては作品を制作する為の糧になった。帰国後、パリで取材をしたスーパーを舞台とした《審判》、滞在中から現在まで制作を続けている、路上のホームレスや地下鉄に居合わせた人々といった市井の人々をモチーフとしたポートレートシリーズ、帰国して改めて日本の原風景に関心を寄せて描いた《まつろわぬもの》等々、数々の作品を制作してきた。作品には残酷さと滑稽さ、煌びやかさと人間の闇が内包されている。
相反する異物同士を作品に同居させている私は「何」を描いているのだろうか。何を描いているかを端的に言うためにはどのような言葉がふさわしいのかを私は長い間考えていた。そして私が描いているものは「うきよ」であるという帰結点に至った。
儚くも残酷で憎くて愛おしい、汚泥と宝石が交互に顔を出す此の世界。それは享楽的で華やかな「浮世」であり苦しみに満ちた「憂世」でもある。私の描く全てのベルベットの作品、ドローイング、紙の作品は実態のない此の世界を写すための依代というメディアである。絢爛豪華なれど陰陰滅滅とした局面を潜める「うきよ」を提示する1人の画家として、私はこの度の展覧会に臨みたい。

谷原菜摘子



創世記
Genesis

ベルベットに油彩、アクリル、オイルパステル、グリッター
oil, acrylic, glitter, oil pastel on velvet
227.3×291cm, 2021



マネキンは歌う
Mannequins Sing

ベルベットに油彩、アクリル、オイルパステル、グリッター、ラインストーン、スパンコール
oil, acrylic, oil pastel, glitter, rhinestone, spangles on velvet
194×260cm, 2021



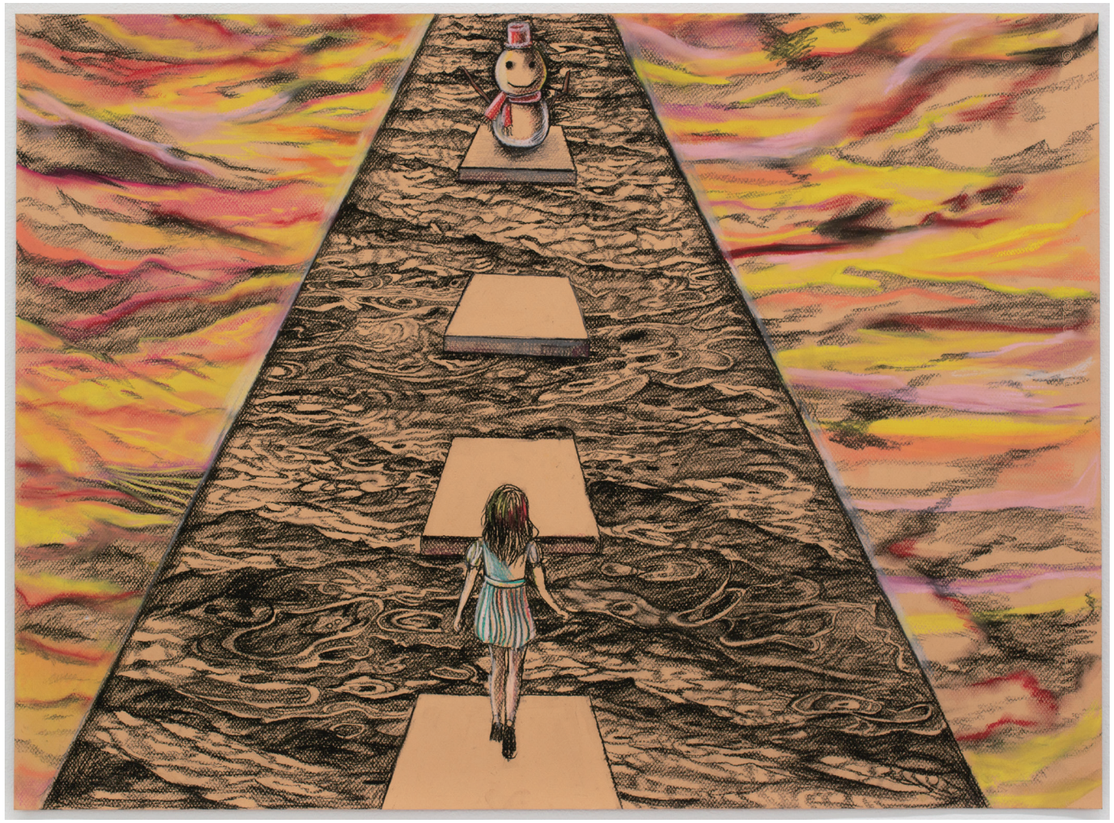


谷原菜摘子展「うきよの画家」
会期｜2021 年 5 月 26 日（水）– 6 月 6 日（日）
会場｜上野の森美術館ギャラリー、東京





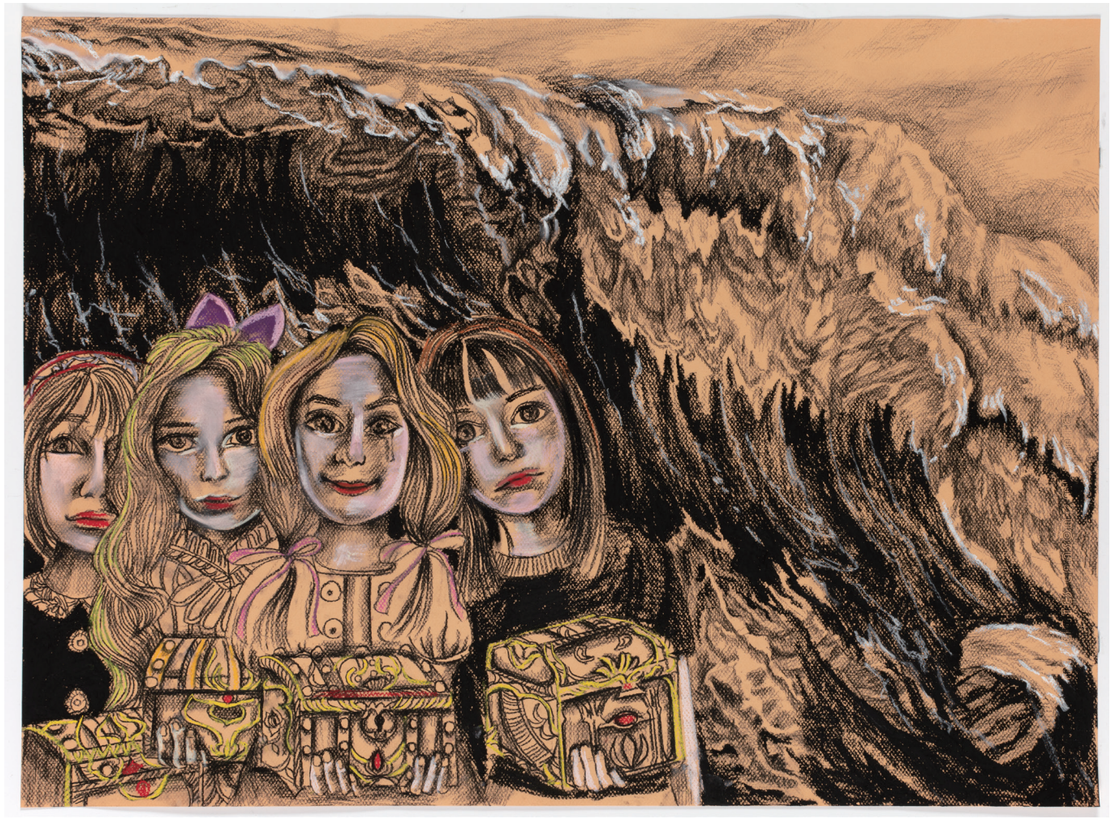
谷原菜摘子展「うきよの画家」
会期｜2021 年 5 月 26 日（水）– 6 月 6 日（日）
会場｜上野の森美術館ギャラリー、東京



道を忘れたので神様に聞きに行く
紙にパステル

I Forgot the Way so I Am Going to Ask God
Pastel on paper

54.8 × 75 cm, 2021



どうせ死ぬならご一緒に
紙にパステル

If We Are to Die, Why Not Together?
Pastel on paper

54.8 × 75 cm, 2020



追憶
紙にパステル

Reminiscence
Pastel on paper

55 × 75 cm, 2021



人魚の唄
紙にパステル

Mermaid Song
Pastel on paper

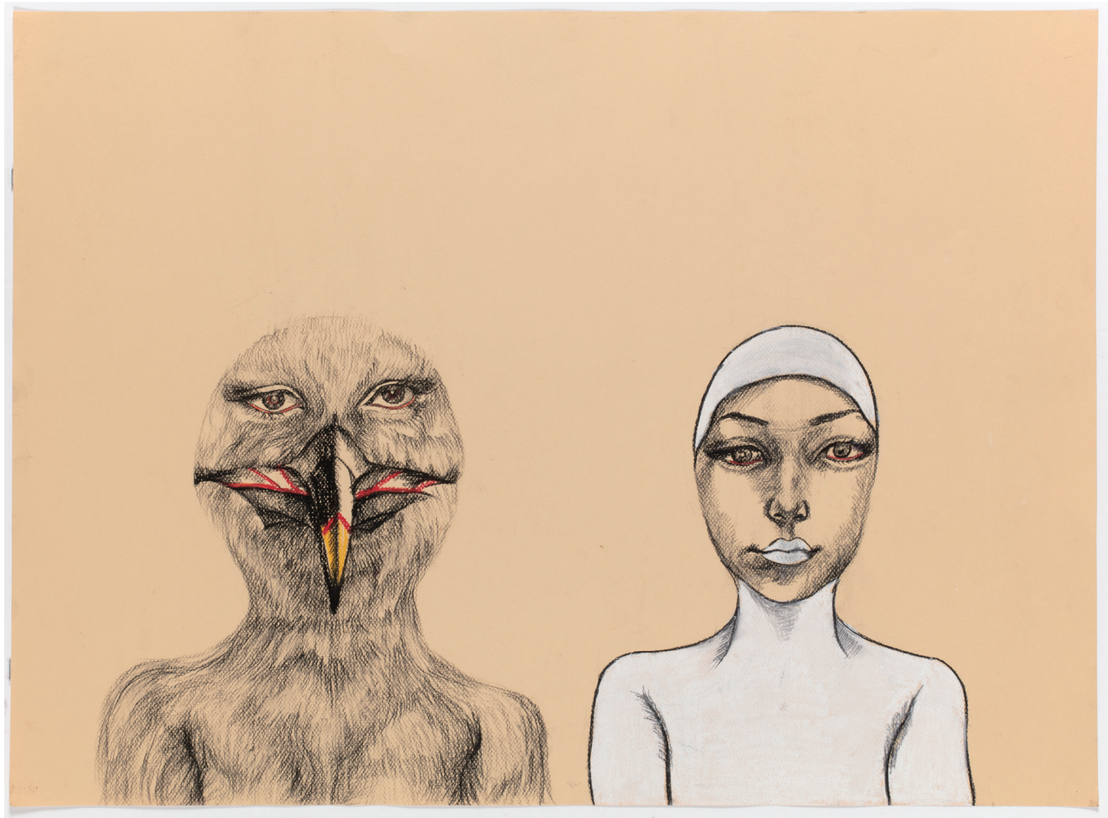
75 × 55 cm, 2020



期待
紙にパステル

Hope
Pastel on paper

75 × 55 cm, 2020



鳥人間と人間鳥
紙にパステル

Bird Human and Human Bird
Pastel on paper

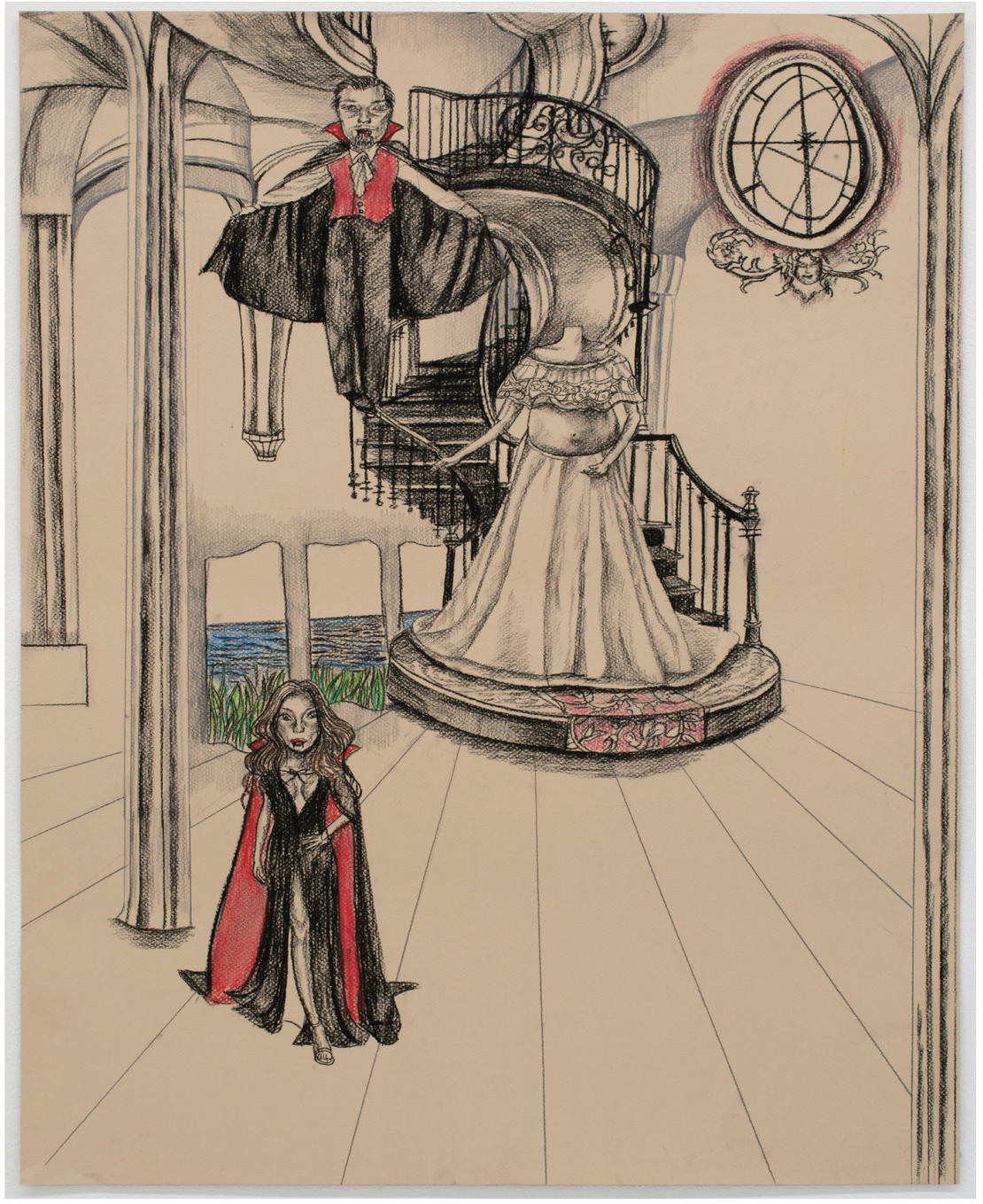
54.8 × 75 cm, 2020



鳥人間と人間鳥
紙にパステル

Bird Human and Human Bird
Pastel on paper

74.8 × 55 cm, 2020



吸血鬼の家
紙にパステル

Vampire's Home
Pastel on paper

74.8 × 55 cm, 2021



室外エレベーター
紙にパステル

Outdoor Elevator
Pastel on paper

74.8 × 55 cm, 2021



スケルトンの一生　－宴の後－
紙にパステル

The Lifetime of a Skeleton –After the Party–
Pastel on paper

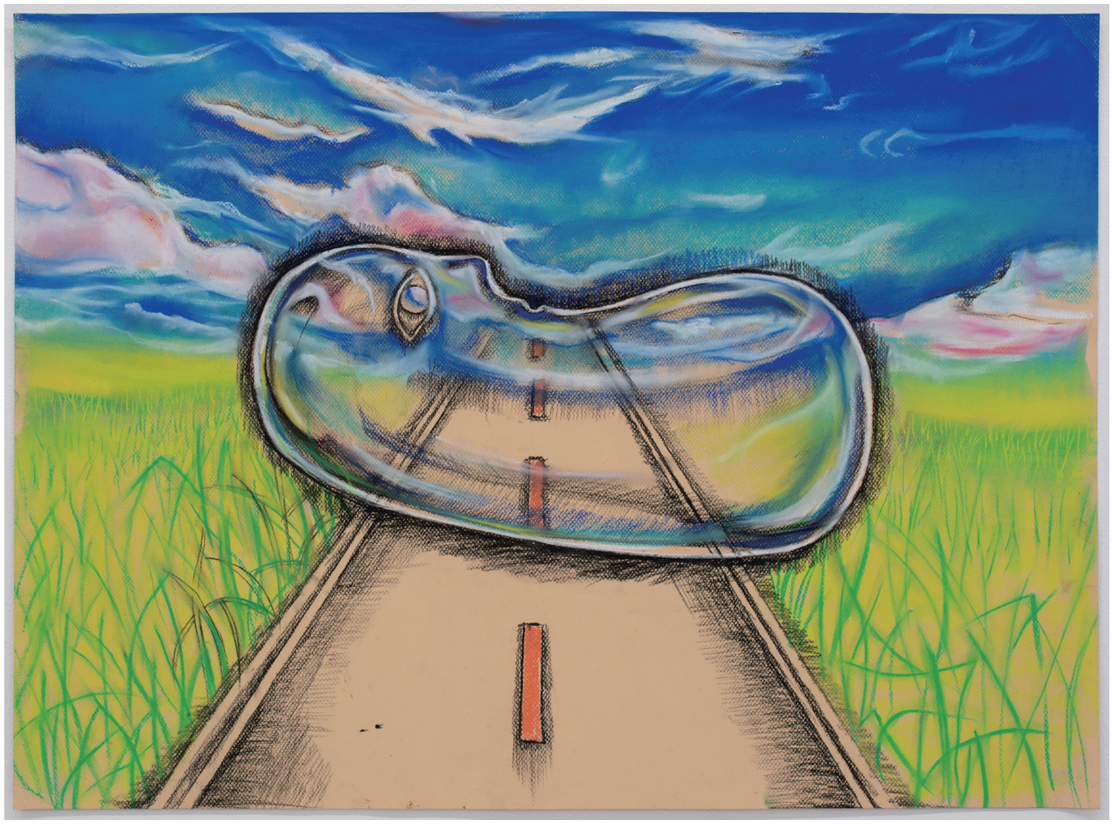
55 × 74.8 cm, 2021



スケルトンの一生　－旅立ち－
紙にパステル

The Lifetime of a Skeleton –Journey–
Pastel on paper

74.8 × 54.8 cm, 2021



スケルトンの一生　－最後の光景－
紙にパステル

The Lifetime of a Skeleton –Final Spectacle–
Pastel on paper

54.8 × 74.8 cm, 2021



黒い女
紙にパステル、ベルベット

Black Woman
Pastel and velvet on paper

74.8 × 55 cm, 2020



赤のスカーフを巻いた人
紙にパステル

Woman Wearing Red Scarf
Pastel on paper

54.9 × 34.5 cm, 2017



サンラザール駅
紙にパステル

Gare Saint-Lazare
Pastel on paper

64.7 × 49.8 cm, 2018



毛皮の人
紙にパステル

Person in Fur
Pastel on paper

64.7 × 50 cm, 2018



マチアス 2
紙にパステル

Matthias 2
Pastel on paper

42 × 39.2 cm, 2020



綺麗なバッグを持つ人
紙にパステル

Person with Pretty Bag
Pastel on paper

54.2 × 39.2 cm, 2020



可愛い帽子を被った人
紙にパステル

Person in Cute Hat
Pastel on paper

55 × 45.5 cm, 2018



私は何も言いたくない
紙にパステル、油彩

I Don't Want to Say Anything
Pastel and oil on paper

54.2 × 39.2 cm, 2020



ホームパーティ
紙にパステル

House Party
Pastel on paper

79 × 55 cm, 2018



放課後
ベルベットに油彩、アクリル、グリッター

After School
Oil, acrylic, glitter on velvet

72.8 × 51.8 cm, 2021





谷原菜摘子展「うきよの画家」
会期｜2021 年 5 月 26 日（水）– 6 月 6 日（日）
会場｜上野の森美術館ギャラリー、東京





谷原菜摘子展「うきよの画家」
会期｜2021 年 5 月 26 日（水）– 6 月 6 日（日）
会場｜上野の森美術館ギャラリー、東京



方舟は未だ現れない
The Ark Still Hasn't Appeared Yet

ベルベットに油彩、グリッター 、オイルパステル
Oil, glitter and oil pastel on velvet
45.5 × 45.5cm, 2021



最果て
The Farthest Land

ベルベットに油彩、グリッター
Oil, glitter on velvet
33.3 × 33.3cm, 2021



山に生きる
Living On a Mountain

ベルベットに油彩、オイルパステル、グリッター
Oil, oil pastel and glitter on velvet
41 × 41cm, 2021

谷原菜摘子展｜ごらん、世界は美しい

会期｜ 2022 年 12 月 3 日 (土) ― 25 日 (日)
会場｜ MEM（東京都渋谷区恵比寿 1-18-4　NADiff A/P/A/R/T 3F）
時間｜ 12:00 – 19:00
定休｜月曜日 (月曜日が祝休日の場合は開廊し、翌平日休廊)
電話｜ 03-6459-3205
協力｜株式会社 SGC

本展タイトル「ごらん、世界は美しい」には、谷原独自の美学が込められています。光を吸収し反射の無いベルベットの漆黒に、鮮やかな色彩の絵の具とグリッターやスパンコールといった偏光素材を用いることによって、「自身の負の記憶と人間の闇とが混淆した美」を、谷原は描いてきました。深い森や、路地裏、夜の海や、黄昏時の畑、どこか寂しさや儚さを漂わせる場所は美しくもあり、不穏で陰惨な予感を抱かせます。どんなに恐ろしい場所であっても、その中で光る美に目を奪われた瞬間、想像と現実が交錯し、作品が誕生します。

初期作の夥しい装飾や小物で埋められていた二次元的な画面から徐々に変化し、近年では、美術史、サブカルチャーや現代の風俗が取り込まれることで、絵画空間に新たな広がりがでてきました。また最近、国文学研究資料館主宰の「ないじぇる芸術共創ラボ」のアーティスト・イン・レジデンスに招待されることで、日本の古典籍を紐解く機会ができ、それが作品に新たな要素を加えました。不可思議な事象と現実、歴史上の出来事や人物が強烈に混ざり合った作品群です。

今回初めての試みである三連画も展示致します。これは西洋の教会の祭壇画から着想を得、谷原の物語世界を続き絵で展開、豪華な金箔を張り込んだ額に収納した作品です。祭壇画を思わせる宗教的な仕立てと不条理な暗黒絵図の組み合わせです。

本展では、進化する谷原作品の新しい地平を、新作油彩 7 点と関連ドローイングでご覧いただきます。

谷原菜摘子

1989 年埼玉県生まれ。2016 年京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了、2021 年京都市立芸術大学美術研究科博士 (後期) 課程美術専攻 (絵画) 修了。2014 年公益財団法人佐藤国際文化育英財団第 24 期奨学生、2015 年第 7 回絹谷幸二賞、2015 年京展・京都市美術館賞、2016 年 VOCA 奨励賞、2018 年京都市芸術新人賞、2021 年第 39 回京都府文化賞奨励賞、梅原賞 (京都市立芸術大学) などを受賞。黒や赤のベルベットを支持体に、油彩やアクリルのほかにグリッターやスパンコール、金属粉なども駆使して描く。2017 年五島記念文化賞美術新人賞を受賞し、2017 年秋～ 2018 年秋の 1 年間、旧五島記念文化財団の助成によりフランス・パリへ研修滞在。関西を拠点に制作活動を行なっている。

近年の主な展覧会に、個展「五島記念文化賞美術新人賞研修帰国記念　谷原菜摘子展 うきよの画家／紙の上のお城」(上野の森美術館ギャラリー、MEM、2021 年)、グループ展「わたしたちの絵　時代の自画像」（平塚市美術館、2022 年）など。



Installation view at MEM, Tokyo



Installation view at MEM, Tokyo



Installation view at MEM, Tokyo



Installation view at MEM, Tokyo



Installation view at MEM, Tokyo



Installation view at MEM, Tokyo



Installation view at MEM, Tokyo



パンドラの匣を開けて眠りましょう

2022 年、ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、ラインストーン、オイルパステル、金箔
h123.4 × w158 × d8.3cm（台座 h15 × w166.5 × d60cm）
協力：株式会社 SGC







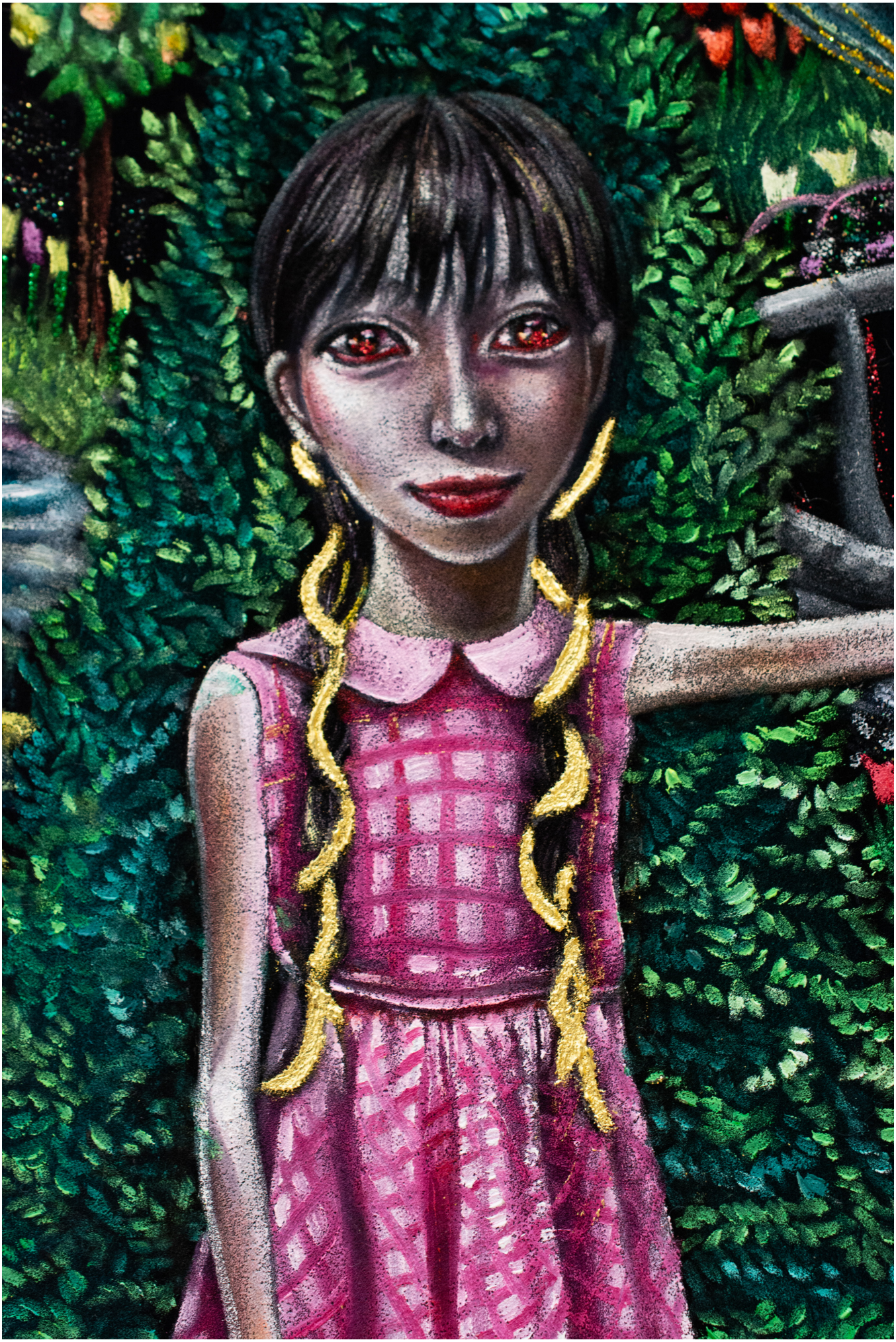


















「パンドラの匣を開けて眠りましょう」のためのドローイング

2022 年、紙にパステル（3 点組）
各 29.7 × 21cm



アリスの世界から
From the World of Alice

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、ラインストーン、オイルパステル、金箔
Oil, acrylic, glitter, rhinestone, oil pastel, gold leaf on velvet
協力：株式会社 SGC
77.2 × 42.2 × 4.6 cm, 2023



シャワーを浴びて金になる

2022 年、ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、ラインストーン、金箔
h41 × w41 × d2cm
協力：株式会社 SGC



「シャワーを浴びて金になる」のためのドローイング

2022 年、紙にパステル
29.7 × 21cm



彼の地
Their Land

紙にパステル
Pastel on paper
161 × 292.6cm, 2022



ぼくの友達

2022 年、ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、ラインストーン、スパンコール、180 × 120cm



無常

2022 年、ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、オイルパステル、260.6 × 162cm



ごらん、世界は美しい
Behold, This Beautiful World

ベルベットに油彩、アクリル、オイルパステル、グリッター
Oil, acrylic, oil pastel and glitter on velvet

162 × 162cm, 2022



放課後の生贄
After-school Sacrifice

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、ラインストーン
Oil, acrylic, glitter, rhinestone on velvet
53 × 53cm, 2021



行くところも帰るところも
Nowhere to Go, Nowhere to Return

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター
Oil, acrylic and glitter on velvet
41 × 41cm, 2021



西山物語 ー魍魎の宴ー
A Tale of Nishiyama – Banquet of the Spirits

紙にパステル
Pastel on paper

161× 222cm, 2023



西山物語－口惜しい－
A Tale of Nishiyama – What a Shame

紙にパステル
Pastel on paper
222.5 × 108.4 cm, 2022



果てなき旅路

ベルベットに油彩、アクリル、オイルパステル、グリッター
Oil, acrylic, oil pastel and glitter on velvet
41 × 31.8 cm, 2023





「ないじぇる芸術共創ラボ二人展 染谷聡×谷原菜摘子－わだかまる光陰」文房堂ギャラリー、東京
会期｜ 2023 年 1 月 11 日 (水) – 17 日 (火)
会場｜文房堂ギャラリー、東京





「ないじぇる芸術共創ラボ二人展 染谷聡×谷原菜摘子－わだかまる光陰」文房堂ギャラリー、東京
会期｜ 2023 年 1 月 11 日 (水) – 17 日 (火)
会場｜文房堂ギャラリー、東京

「新竹取物語　序」

谷原菜摘子

　昔々「　」がいました。
「　」の周りにあるのは枯れた大地と大きな岩だけでした。「　」には形も名前もなく、そこから動く事すらもできませんでした。しかし、「　」の周りには何もなかったので、ただそこに何もせず、ひたすら存在しているだけでも「　」は特に不幸ではありませんでした。
「　」が誕生してから長い長い時が流れ、「　」の周りは少しずつ変化していきました。地面が盛り上がり、たくさんの木や植物が枯れては生えて、水が流れやがて一箇所に集まりました。
　すると、見たこともないものたちが集まるようになりました。四つ足で動く大きいものや小さいもの、空を飛ぶもの、地を這うもの、毒を持つもの。たくさんの生き物たちが「　」の周りに次から次へと現れるようになりました。
　彼らは自分の意思で動き、他の生き物を殺し、種族を増やし、それぞれがはっきりとした「形」を持っていました。
　どうして自分には形がないのだろう、どうして自分はここから動くことができないのだろう。
「　」は初めて自分だけが他のものと違うことを悟りました。形を持っていない自分を惨めに思うようになりました。
「　」の周りに集まるものたちは大抵が「　」には気がつかなかったのですが、たまに「　」を認識し、怯え逃げるものもいました。「　」にはどうして彼らが自分から遠ざかるかがわかりませんでした。
　彼らは姿は見えないものの、そこに何か恐ろしい気配を感じ、逃げていただけですが、「　」は自分のことを排除し、嘲られているように思いました。
「　」はこの世界で唯一、自分だけが「形がない不自由なもの」であることを悟り、誰よりも不幸な存在であることを知りました。そしてその時から「　」の心は劣等感でいっぱいになり、自分以外の形のあるものへの憎悪を絶えず感じるようになりました。
　もしもいつか自分が形を手に入れることができたならば、生きている限りそれを壊し続けようと「　」は決めました。
　そこからさらに長い時が流れました。いくつもの季節を越えて他のものがその数を増やし、木の大きな箱や、光り輝く何かが増えて、二つ足の生き物が現れ始めました。
　二つ足の生きものはめまぐるしく増え続け、他の生き物をたくさん殺しました。それだけではなく、同じ形同士でも殺し合い傷つけ合いました。たくさんの木の箱を作り出し、植物を刈り取り、燃やしました。全ての生きものは二つ足のものを見て恐れました。
　二つ足のものはこの世界で一番強いのだと「　」は思いました。自分も二つ足のものになりたい、そして形あるものを全て壊したいと苦しい程思いましたが、「　」にはどうすることもできませんでした。目の前で二つ足のもの同士が、互いの形を削り取っているのを見て、何もできない自分を呪いました。
　いつしか「　」の周りは暗く黒く沈んでいましたが、木の影と同化していたので誰も気がつきませんでした。
　ある日、「　」の前に木を自由自在に登る小さいものが現れました。それは「　」には気がつかず向かってきて「　」を通り抜けようとしました。
　その時です。信じられないことが起きました。「　」は「猿」になっていたのです。
　猿の「目」を通して見た世界、「耳」で聞いた音、「皮膚」に感じる風、全てが今まで感じていたものとは異なりました。自分にも形ができた、と猿は歓喜しましたが、一歩を踏み出した瞬間に猿の体は壊れて、また形のない「　」に戻っていました。「　」は壊れた猿の体を見下ろしました。
　一度でも形を持って見てしまった世界と比べると、今自分が見ている世界があまりにも茫洋とし味気のないもののように思えました。「　」は絶望し消えてしまいたいと思いました。
　そこからいくつかの季節が流れました。色とりどりのものを被った二つ足のものが増えても、「　」はもう何も感じませんでした。ただ、もし自分が彼らを壊すことができるのならば、色鮮やかな方を壊したいとだけ思いました。
　猿の体が完全に土に還り、背の高い緑色の管のようなものがたくさん生えてきた頃、少し背の高い生き物が「　」を通り過ぎました。すると「　」は「鹿」になっていました。
　どうせまたこの体も壊れてしまうだろうと思いましたが、今度は鹿のまま歩き回ることができました。「　」は信じられない気持ちで全身全霊で走り出しました。
　草を食み、野山を駆け巡り、水に体を浸しても鹿の体は壊れませんでした。目から涙が溢れました。このまま鹿の形を纏い、生きていこうと「　」は思いました。
　すると急に息が苦しくなり、経験したことのない苦しみが体を纏い膝が崩れ落ちました。その苦しみは首から始まっていました。鹿の首には鈍く光るものが刺さっていました。見上げると二つ足のものたちがいました。どんどん目の前が暗くなります。
　やがてまた「　」に戻っていました。今度は「　」は絶望しませんでした。その代わりに「　」は決意しました。どれほどの時間がかかっても自分は二つ足のものになろう。そして生きている限り二つ足のものを壊し続けよう、いろいろな方法で彼らを壊し、苦しめ、根絶やしにしてやろう。二つ足のものを壊し尽くしたら、四つ足のものも壊してしまおう、全ての形のあるものを壊して全部自分と同じにするのだと。
　そう思うだけで「　」は存在して初めて幸せな気持ちになりました。猿、鹿の形になれたのだから二つ足のものにもいつかはなれるだろう、その時が来るまで何も考えまいと意識を閉じました。

　少年が竹藪の中を歩いています。彼は山の上に住む人々の王子でした。山の上の暮らしは楽ではありません。城を建てるのも、食べ物を確保することも、着物を縫うことも万事が大変です。彼らも好きで山の上で暮らしているのではありません。山の上の人々は、かつては海をわたり、山の下の住みやすい村にたどり着き、皆で仲良く幸せに暮らしていました。彼らには不思議な力があり、次々と便利なものを

作り出し、そこに最初から住んでいた人々の生活を豊かにしました。このまま仲良く皆で暮らしていけると誰もが信じていました。
　しかしある時からその不思議な力を持つ彼らを、最初に住んでいた人々が恐れ、妬み、憎み始めました。幸せに暮らしていた彼らはあっという間に山の上に追放されてしまいました。
山の上に移った彼らの生活は苦しいものになりましたが、不思議な力を持っていたので、なんとか皆で協力して家を作り、壁をたて、また新たに村を作りました。
　不思議な力を持つ彼らを山の下のものたちは「鬼」と蔑み、彼らの住む村を「鬼の城」と呼びました。
　鬼の城の王子はその日何と無く散歩をしていたのです。ただ歩いているうちに見たことがない竹林に迷い込んでしまいました。竹林は人間の気配がなく、しんと静まりかえり、昼なのに妙に暗く寂しいところです。
　引き返さなければならないと思っていたのですが、どういうわけか奥に奥にと進むことをやめられませんでした。竹林の中をどれほど歩いても何もありませんでした。竹と竹の間から覗く暗闇は夜のそれよりも暗く、体にまとわりつくような粘りを持っているように見えました。
引き返そう、王子が踵を返そうとした時視界がぐにゃりと歪みました。ゆっくりと顔がずれ、上から下に順番に臓腑が歪み、指先まで自分の意思とは関係なく中の肉が蠢動していきました。頭の中が異様に熱くなった後、雪よりも冷たくなり、次から次へと記憶が消えていきました。自分が何者で、どうしてここにいるかがわからなくなった頃、王子はふっと消えました。

「　」は人間の王子になっていました。幾千月なりたいと願っていた二つ足の生き物は「人間」だったのです。王子の脳を手に入れた「　」はすべての生き物には形があり、特に人間にはその形の在り方で優劣があることを知りました。あれほど憎んでいた形のある生きものたち。その頂点に君臨する人間の、さらに上にいる「強くて形が綺麗なもの」。この綺麗なものから壊していこうと「　」は決めました。
　できるだけたくさん綺麗なものを壊そう、それが終わったら次は平等に醜いものもきちんと壊そう、最後にはすべての形あるものを暗いところに戻そう。そうして全部を真っ暗に治したらみんなが幸せになれると思いました。
　散歩から戻ってきた王子は別人になったと、山の上の村人や王子の家来たちが言いました。いや、今までが軟弱だった、山の下の奴らを根絶やしにするには今くらいの方がいいと皆が王子を褒めました。
　この日以降王子は「鬼王」と呼ばれ、すべての人たちから恐れられるようになるのです。



新竹取物語　あこがれ

紙にパステル、チャコール、鉛筆
Pastel, charcoal, pencil on paper
75 × 55cm, 2023



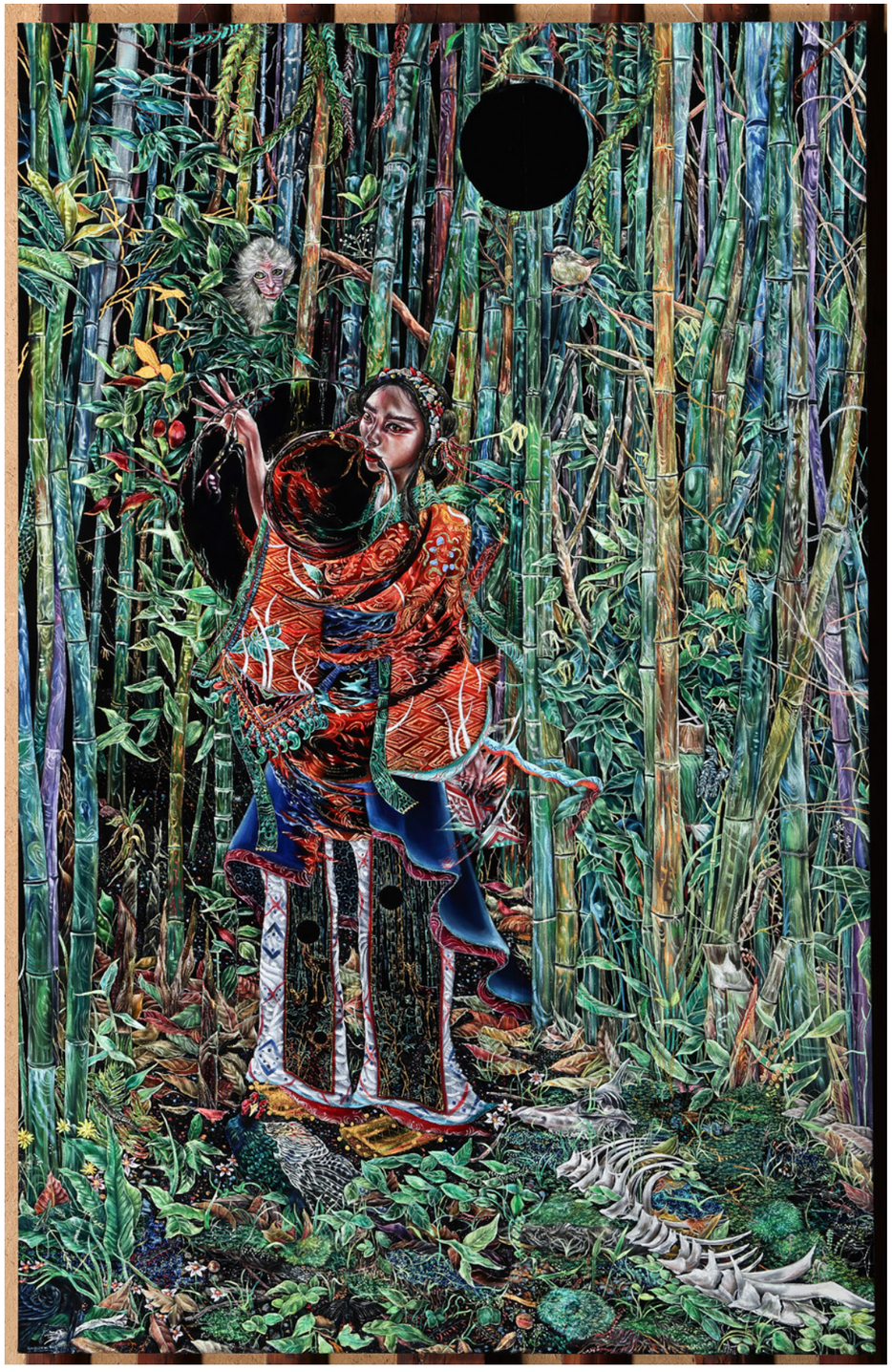
新竹取物語　誕生

紙にパステル、チャコール、鉛筆
Pastel, charcoal, pencil on paper
161 × 222cm, 2023



新竹取物語　旅立ち

紙にパステル、チャコール、鉛筆
Pastel, charcoal, pencil on paper
222.5 × 108.4 cm, 2022



新竹取物語　邂逅

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、金属粉、オイルパステル
Oil, acrylic, oil pastel, metal powder, glitter on velvet
227.3 × 145.5 cm, 2023

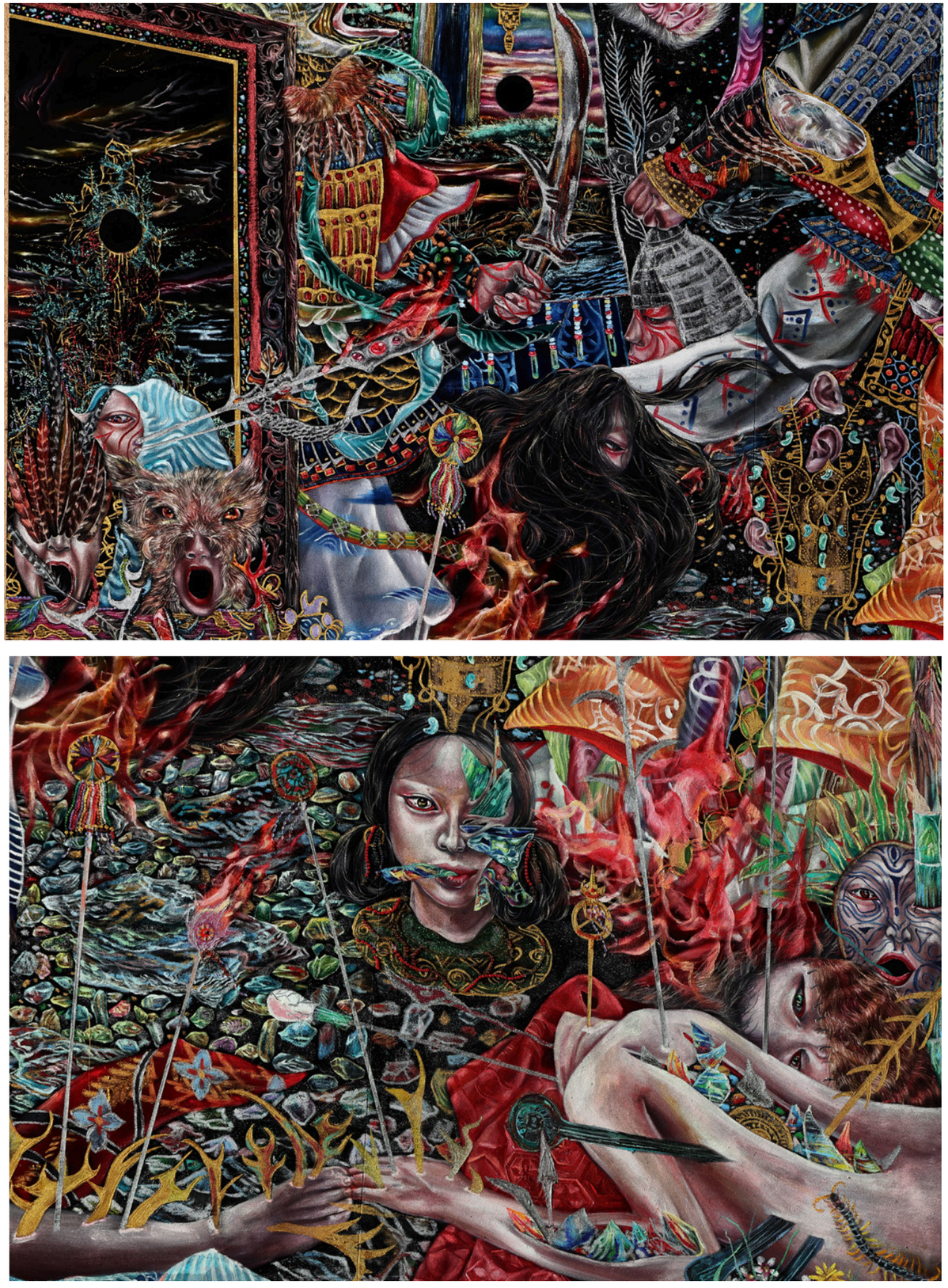


新竹取物語　邂逅



新竹取物語　栄華の時

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、金属粉、オイルパステル
Oil, acrylic, oil pastel, metal powder, glitter on velvet
227.3 × 145.5 cm, 2023



新竹取物語　栄華の時



新竹取物語　黄昏

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター、金属粉、オイルパステル、ビーズ、スパンコール
Oil, acrylic, oil pastel, metal powder, glitter, beads, spangles on velvet
227.3 × 145.5 cm, 2023



新竹取物語　黄昏





「ARKO 2023 谷原菜摘子」
会期｜ 2023 年 7 月 11 日 (火) – 9 月 24 日 (日)
会場｜大原美術館、岡山





「ARKO 2023 谷原菜摘子」
会期｜ 2023 年 7 月 11 日 (火) – 9 月 24 日 (日)
会場｜大原美術館、岡山





「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪





「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪





「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪



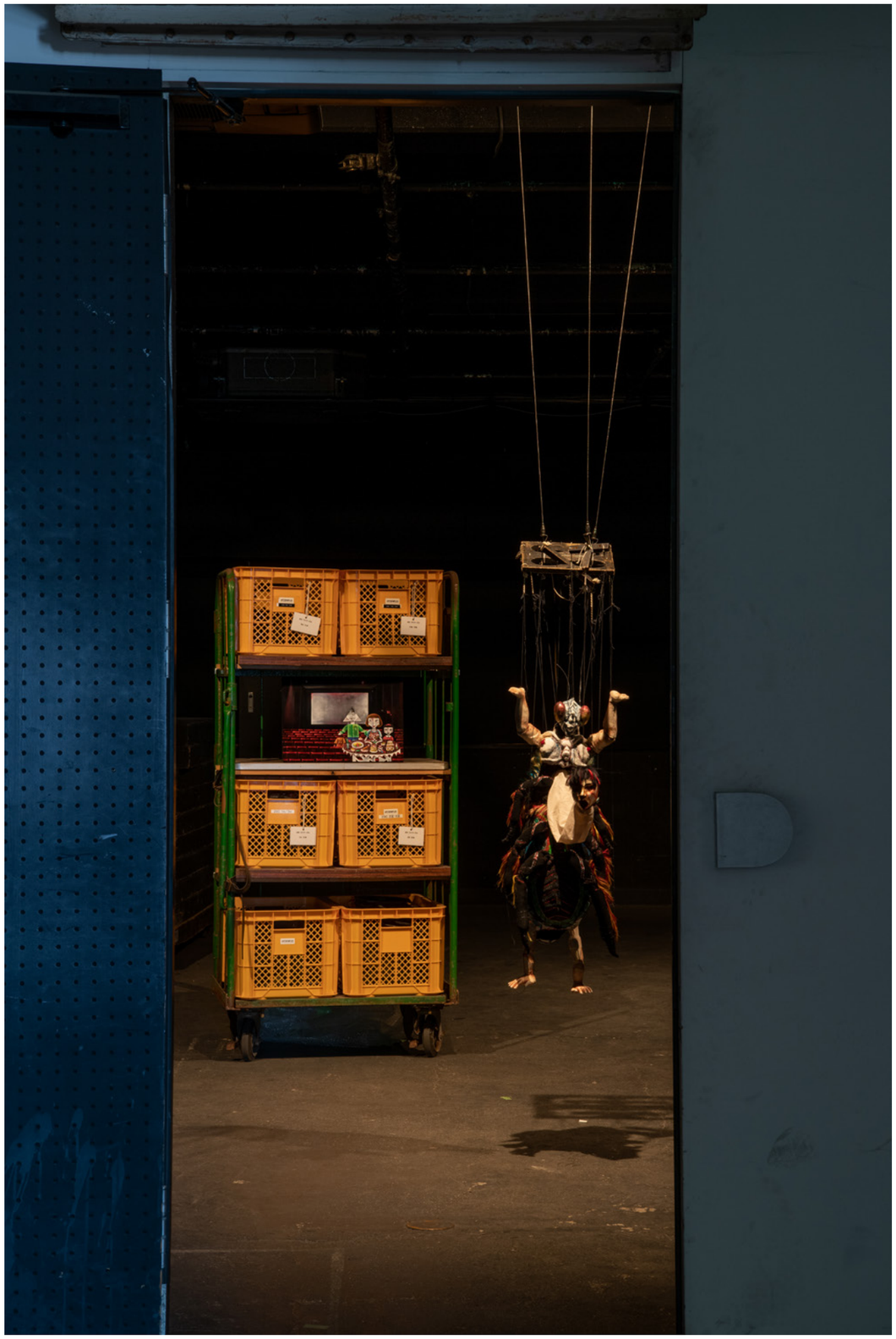


「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪





「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪



「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪





「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪





「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪



「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪



「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪





「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪





「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪



「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪





「谷原菜摘子の北加賀屋奇譚」
会期｜ 2023 年 3 月 8 日 (水) – 12 日 (日)
会場｜クリエイティブセンター大阪、千鳥文化、大阪

どこかでラッパが鳴っている

谷原菜摘子

見えないところで、誰も知らないところで何か恐ろしいものが育っているのではないか。そしてそれが、誰の目にも見えるようになった時は、既に取り返しがつかないのではないだろうか、と言ったような茫漠とした不安を私は物心ついた時から今に至るまで抱いている。

そして、私を含めた人間が毎日のように、ろくでもないことをしているのならば、いつ終末が訪れてもある意味では仕方がないようにも思う。

黙示録によると終末が訪れると、海や川は枯れ、水は赤く染まり、疫病が猛威をふるい、大勢の人間が死ぬらしい。これでもかというような悲惨な状況が延々と続き、容赦のない暴力に人間は蹂躙され続ける。そこにはなんの慈悲も救いもないように見える。

最初に述べた「ろくでもない」とは多少矛盾するが、そこまでの暴力を振るわれるほど私たちは悪い存在のようには思えない。全てを受け入れる心境には到底なれそうにもない。

黙示録が誕生してから二千年近く経つ。私たち人間もひたすら脅威に脅かされるだけの存在ではなくなった。かつては神の暴力に恐れ慄いているだけの存在だったかもしれないが、現在の我々はそこまでお人好しでも善人でもない。二千年の間に多くのことを学び、強く、たくましくなったのである。

黙示録では、災厄や悪意を煮詰めたようなものが入った鉢を天使が地上にぶちまける様子が記述されている。私たちが住む地上には悪意の水が降り注がれるが、同時にこの時天上の国と地上の国に「橋がかかった」と言えるのではないだろうか？その繋がってしまった場所からもし反撃ができるとしたら？

か細い橋を渡り、一矢報いることができたとしても、圧倒的な強さを持つ天上の住人に地上の私たちは勝つことはできないだろう。小さな反撃は虚無への供物にしかならないかもしれない。

しかしその小さな反撃の集積は、やがて細波となるだろう。その細波が途方もない時間を経て大波となり天の国を揺るがすのか、生命の水と一体化し共存するのか、細波が泡沫となり霧散してしまうのかはわからない。

しかし一度起きた細波は無とはならず何かを成すのである。



どこかでラッパが鳴っている
Somewhere a Trumpet Sounds

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター
Oil, acrylic, glitter on velvet
162 × 112 cm, 2021

どこかでラッパが鳴っている

谷原菜摘子

1

夕方５時ごろに梅田グランフロントの広場を歩いていると、四方八方から甲高い叫び声が聞こえた。数分前までは、夕焼け色に染まるビル群を背景に各々が黄昏時を楽しんでいたのである。私もその中の一人であった。
女の甲高い叫び声に振り返ると、赤く染まったビルとビルの隙間から飛行機の頭がぬっと現れた。突如として現れた飛行機は垂直にズズッ、ズズっと地べたを這うように、ゆっくりゆっくりと飛翔している。一般的な飛行機の飛び方ではないことは一目瞭然だ。
このような都市の人工密集地かつ、建物と建物の隙間に無論滑走路はない。仮に何かの間違いで滑走路が建設され、自衛隊か何かしらの団体のパフォーマンスが行われているのだとしても、ビルとビルの隙間からいきなり飛行機が現れることは不可能だ。しかし現実問題として、一切の予告もなく我々の前に当然のように飛行機は現れたのである。
異常事態の発生だが、問題はそれだけではない。
「あれ、飛行機だよね…？大きくない…？」
誰かが震えながら言った。そうなのである、飛行機にしては目の前に現れた飛行物体はあまりにも大きかった。垂直の飛行機はまだ体半分しか見えないが、それでも既に隣のビルのゆうに1.5倍の大きさはある。全体が現れたら一体どれほどの大きさなのだろうか。
おかしなことにそれほどの大きさのものが動いているにもかかわらず、ビルはどれ一つとして倒壊していない。それどころか傷一つ付いていないようだ。
もしかして目の前のこれは物体ではなく映像なのか？自分たちは何かのパフォーマンスを見ているのか？
騒然としていた広場の群衆たちが「これは非常にリアルな映像に違いない」という共通認識を持ち始め、何人かはアイフォンを飛行機に向けてすごい、すごいと撮影を始めた頃、妙に通る声があたりに響いた。
「違う！」
５０代半ばの女性が真っ直ぐに指を指している。先ほどの飛行機は指先の上、遥か上空で飛翔を続けている。しかし女性の指の先にはまた別の飛行機が、いや「飛行機たち」がいた。
もう一体、また一体と最初の飛行機が現れた場所からわらわら、わらわらと湧き出し、やはり垂直にゆっくり飛んでいく。その統制の取れた動きはまるで何か別の生き物の行進のようであった。
その様子を我々は阿呆のように見つめていた。
この飛行機たちは大気圏に入ったら墜落してくるのではないだろうか？私はいますぐここから離れた方が良いのではないだろうか？
妙に冷静にそんなことを考えながらも体が動かない。思考に体が追いつかないのである。それは私だけではなく他の人々も同じだった。あたりは静まりかえり、時折「いやー」とか「えー」と言った間延びした声が虚しく響くだけである。
このまま５分くらいは皆でくの坊のように立ち尽くすかのように思えたが、「ガッシャーン」という音と煙の臭いで全員が正気に戻った。
駐車してあった無人の車が電柱に衝突したのである。フロントガラスは盛大に割れ、完璧に破壊されたボンネットからは赤黒い煙が上がっていた。

それが合図だったのだろうか。視界の中にある無人、有人を問わず自動車、バイク、自転車、クレーン車などありとあらゆる乗り物が、フルスロットルのスピードでそこらかしこに衝突し始めたのである。
街路樹が倒れ、電柱が倒れ、ウインドウガラスは割れ、コンクリートとガラスの破片が飛び散った。あっという間に化学物質が焼ける臭い、人間が破壊されていく臭いが辺りに充満する。
広場にいた群衆は今度こそ在らん限りに悲鳴をあげ、蜘蛛の子を散らすように走り始めた。
上空にいる飛行機はいまや数百体を超えているが、それでもお構いなしにビルの隙間から新しい飛行機が次々に生まれている。夕焼け空がおびただしい数の飛行機で埋まり、燃える車で道路があふれた頃、放送が流れた。
「終末が始まりました。繰り返します、終末の始まりです。選ばれたニエの方々をこれから政府の担当がお迎えに参ります。選ばれた方々は速やかに指示に従ってください。その他の方々は基本的な法律、個々人の良心に従った行動を心がけ最後の時間をご自由に過ごしてください。繰り返します、終末の始まりです…。」
録音された女の機械的な声を聞いて私は妙に納得した。
なるほど、これは終末か、ならば仕方ない。できる限り死なないように家に帰り、ゆっくりと最後の時を過ごしたい。可能ならその時がくるまでは体がバラバラになるような無惨な死に方はしたくない。そういえばニエって何だ、選ばれたら何かさせられるのか。死ぬ前に面倒臭いことをさせられるのは勘弁被りたい。

そこまで考えた時に一台のベンツが目の前に止まった。なぜこの車は普通に動くのだろうか。上級国民の車は終末でも特別扱いなのかー。
ドアが開きスーツ姿の２０代と思われる男女が現れこう言った。
「我々は政府の人間です、お迎えに参りました。あなたはニエになる可能性があります。少なくとも数％は。もうすぐここは人間が歩くことはできなくなるので、我々と車に乗った方が身のためです。」
ここにいても死ぬのであれば私には従う以外に道はない。政府のベンツに乗り込み燃える車と壊れたものたちの残骸を避け、時には踏み潰しながらたどり着いた先は銭湯であった。

「なぜ銭湯なのですか」
「ここの地下水路からニエの皆様を流し込み、世界の隙間に捧げ、残った我々は祈ります。そうすることで神様が許してくれて終末が止まる可能性が僅かながらあります。」
政府の女が言った。
「流されたニエはどうなりますか」
「さあ、見当もつきませんが、おそらく生きては帰ってこれないのではないでしょうか。」

2

銭湯の脱衣所は男女に分かれている。誰に指示されるわけでもなく選ばれたニエは自分たちの性別に従って脱衣所に進んでいく。終末でもこのようなルールに従うのは日本人の習性に違いない。
女性用の脱衣所に進んだ私たちに、スーツの女がこれからの流れを説明した。
「これからくじ引きをします。数字が書いてある札を選んだ方々はニエになる可能性を孕んでいます。数字を引いた方々は、自分の選んだ番号と対応するロッカーに進み、中にある洋服に着替え変化をお待ちください。変化された方はこの桶を順番にとっていってください。その他の札を引いた方はお帰りになって結構です。」
籠に入ったくじを引く。私の選んだくじには七番と書いてあった。私はニエに決定である。ここにくる前はニエなんてと思っていたが、窓の外を見ると自分の家が残っている可能性、家族が生きている可能性が一切ないことがわかった。もはやどうでもいい。
「よかったら代わりましょうか」と後ろいた私より少し年上と思われる子に言われたが、断った。燃える街に放り出されるよりはニエの方が幾分ましなように思える。

七番のロッカーには真っ赤なワンピース、真っ赤な靴、真っ赤な帽子が入っていた。どのロッカーにも真っ赤な衣装が入っているようである。赤服集団の完成だ。
赤い服を着ると異常な気持ちの高まりと、体の奥底から湧き上がってくる力を感じた。
気がつくと右手が飛行機の翼になっていた。顔を触ると半分が金属のように硬い。脱衣所の鏡には飛行機と人間が混ざったような赤い生き物たちが写っている。背中からプロペラが生えているもの、足先が飛行機になっているものもいる。パワーの源は飛行機ということか。
「飛行機ガールズの皆様、出発のお時間です。」

政府の人間とニエになり損ねた女たちが我々の前に一列に並び敬礼していた。

3

「これから皆様をこの桶に入れて、地下水路に流します。流された皆様はやがて世界の隙間に到着します。そこには飛行機ガールズである皆様しかたどり着けません。私たちはそこに何があるか知りません、私たちが調べられたことはそこに皆様を流し込むことで終末を止められる可能性がほんの少しだけあるということです。皆様に何をして欲しいとも言えません。何をしたら良いのかそれは誰にもわからないんです。ここからは皆様に全てを委ねるしかありません。言えることは一つだけ…どうかご武運を。」

最初に私を車で運んだスーツの男女、その他のおそらく政府関係の人間、ニエになり損ねた人間たちが腕を組み私たち飛行機ガールズに祈っていた。
飛行機ガールズである私たちは顔を見合わせる。私の目の前にいる子は両足が飛行機の頭となり、背中には翼が生えていた。目の中に回るプロペラが見える。変な顔だ。相手も私を見てそう思ったらしくお互いに笑ってしまった。

「全部無駄だと思う。」
妙に嬉しそうにプロペラをブンブン回しながら彼女は言った。
「私もそう思う。でも世界の隙間があるなら見てみたい。」
私も笑いながら答えた。なぜかおかしくてたまらない。何もかもが滑稽だ。
おそらく終末は止まらない。遅かれ早かれ全員が死ぬ。全ては虚無への供物になる。

さあ、桶に乗って世界の隙間を目指そう、我々の全てを虚無へと捧げ、馬鹿馬鹿しい祈りを神へお見せするのだ。



世界の隙間　ここで飛べ
The Rift of the World, Fly Here

ベルベットに油彩、アクリル、オイルパステル、グリッター
Oil, acrylic, oil pastel, glitter on velvet

194 × 260cm, 2024



かみに成る
Divine Emergence

ベルベットに油彩、アクリル、金属粉、オイルパステル、グリッター、ラインストーン
Oil, acrylic, oil pastel, metal powder, glitter, rhinestone on velvet

227.3 × 291cm, 2024



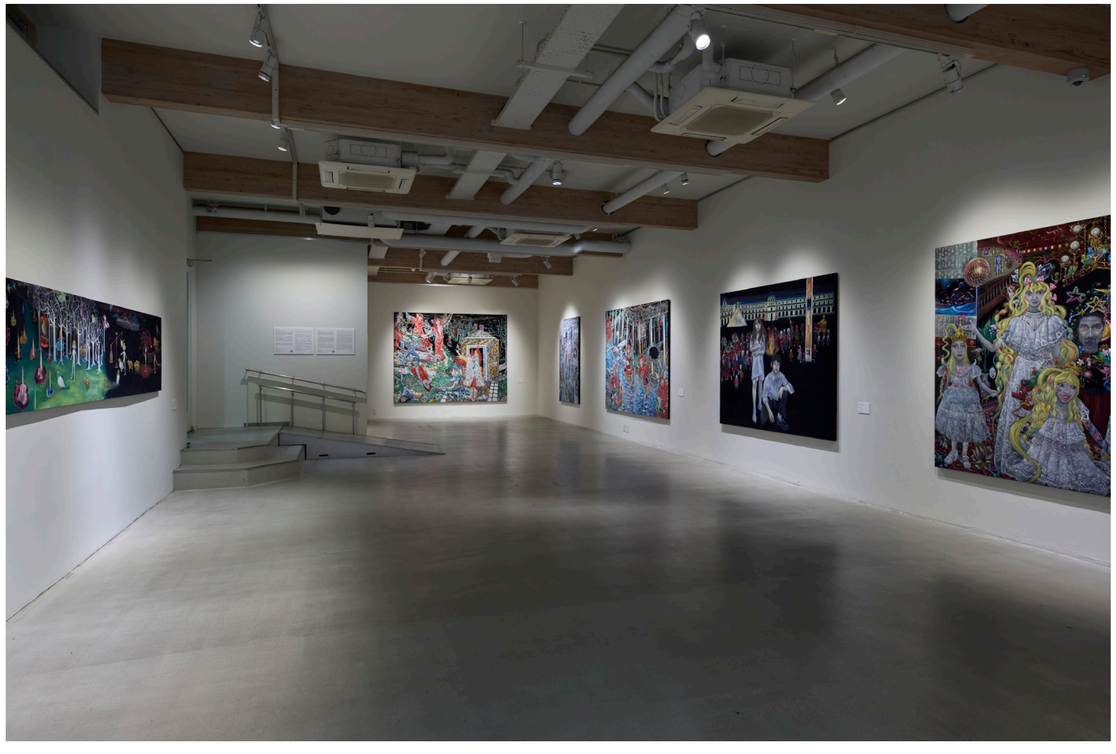
私たち上に行くの
Up We Go

ベルベットに油彩、アクリル、オイルパステル、グリッター、ラインストーン
Oil, acrylic, oil pastel, glitter, rhinestone on velvet
194 × 130.3 cm, 2024



ランデブー
Rendezvous

紙にパステル、オイルパステル、チャコール、アクリル、グリッター、鉛筆
Pastel, oil pastel, charcoal, pencil, acrylic, glitter on paper
292.6 × 161 cm, 2024





個展「どこかでラッパが鳴っている」
会期｜ 2024 年 9 月 14 日 – 20 日
会場｜上野の森美術館ギャラリー





個展「どこかでラッパが鳴っている」
会期｜ 2024 年 9 月 14 日 – 20 日
会場｜上野の森美術館ギャラリー



私たちの人生
Our Lives

ベルベットに油彩、オイルパステル、グリッター
Oil, oil pastel, glitter on velvet
60.6 × 72.7 cm, 2024



何が見えますか？
What Do You See?

ベルベットに油彩、オイルパステル、グリッター
Oil, oil pastel, glitter on velvet
41.1 × 53.4 cm, 2023



見えないところで大きくなる
Growing Out of Sight

ベルベットに油彩、オイルパステル、グリッター
Oil, oil pastel, glitter on velvet
45.7 × 33.5 cm, 2024



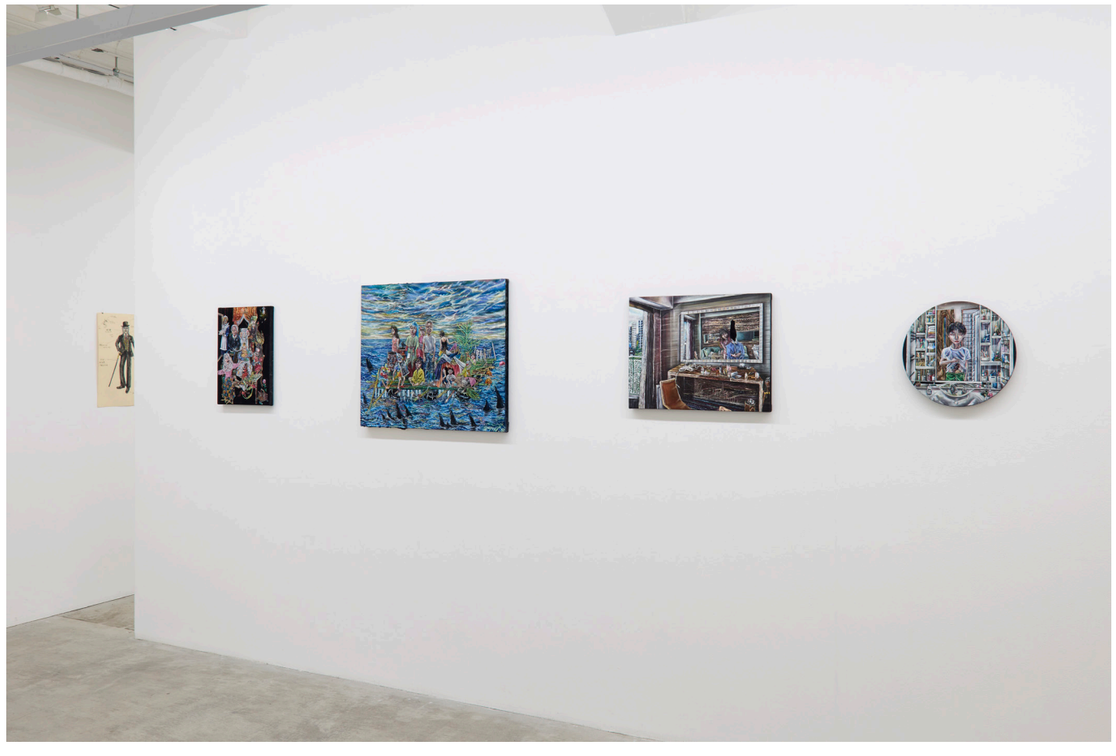
僕の中に宇宙が生まれた日
The Day the Universe was Born Inside Myself

ベルベットに油彩、オイルパステル、グリッター
Oil, oil pastel, glitter on velvet
33.5 × 33.5 cm, 2024





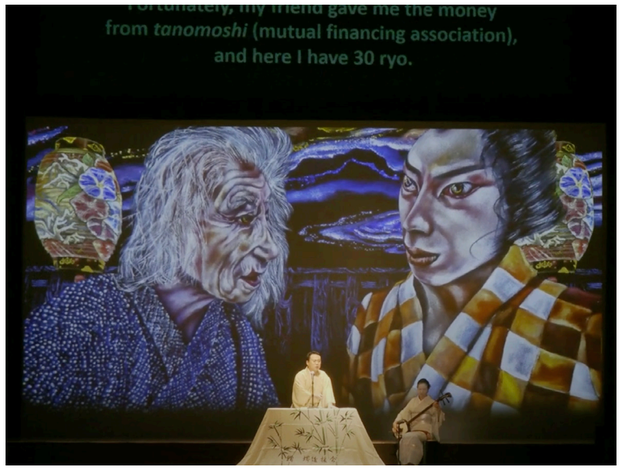
個展「私たちの人生」
会期｜ 2024 年 9 月 7 日 – 29 日
会場｜ MEM（恵比寿）





個展「私たちの人生」
会期｜ 2024 年 9 月 7 日 – 29 日
会場｜ MEM（恵比寿）

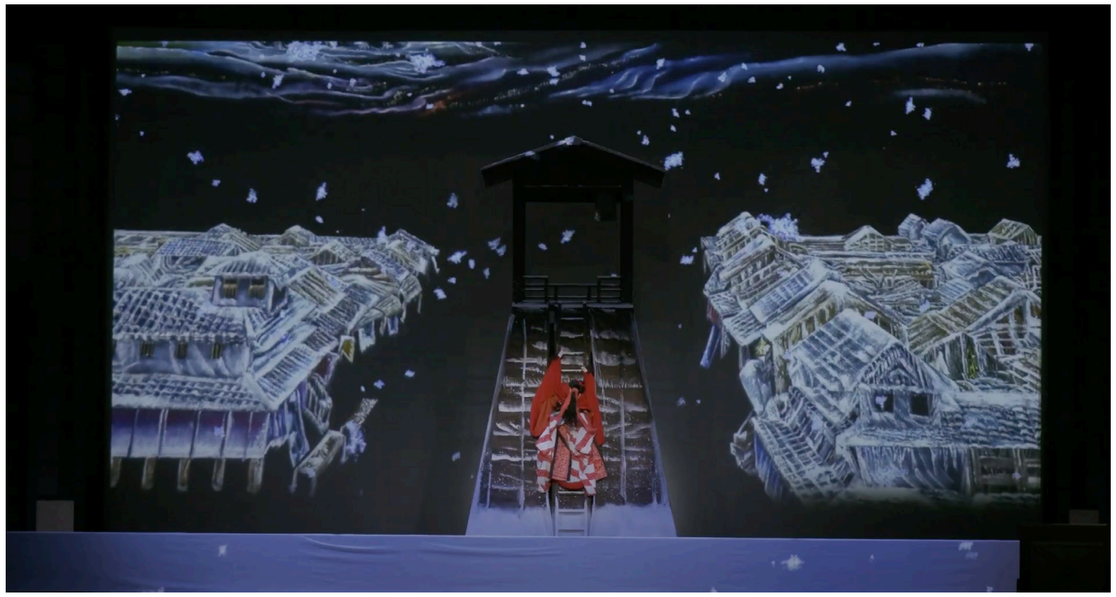
















人形浄瑠璃　文楽 × 講談 × 現代美術プロジェクションマッピング
中之島文楽 2024
宣伝画・プロジェクションマッピング用の画を担当した。











江戸糸あやつり人形劇団結城座の演目「変身」（2022 年初演、2024 年再演）
宣伝画・人形美術を担当した。写真提供：結城座



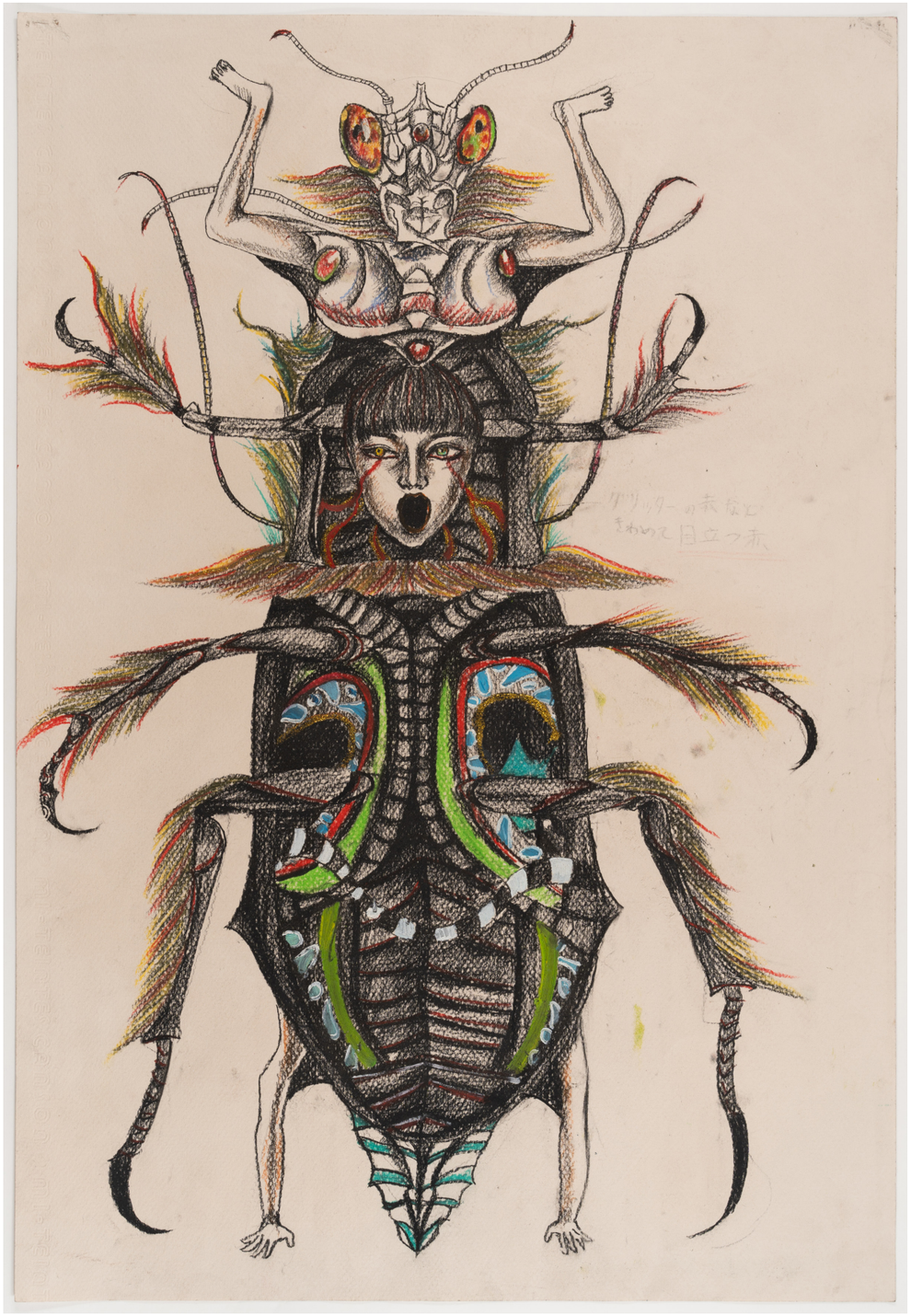
変身
The Metamorphosis

ベルベットに油彩、オイルパステル、グリッター
Oil, oil pastel, glitter on velvet
45.7 × 33.5 cm, 2024 （結城座の「変身」の 2024 年再演時のポスター原画）



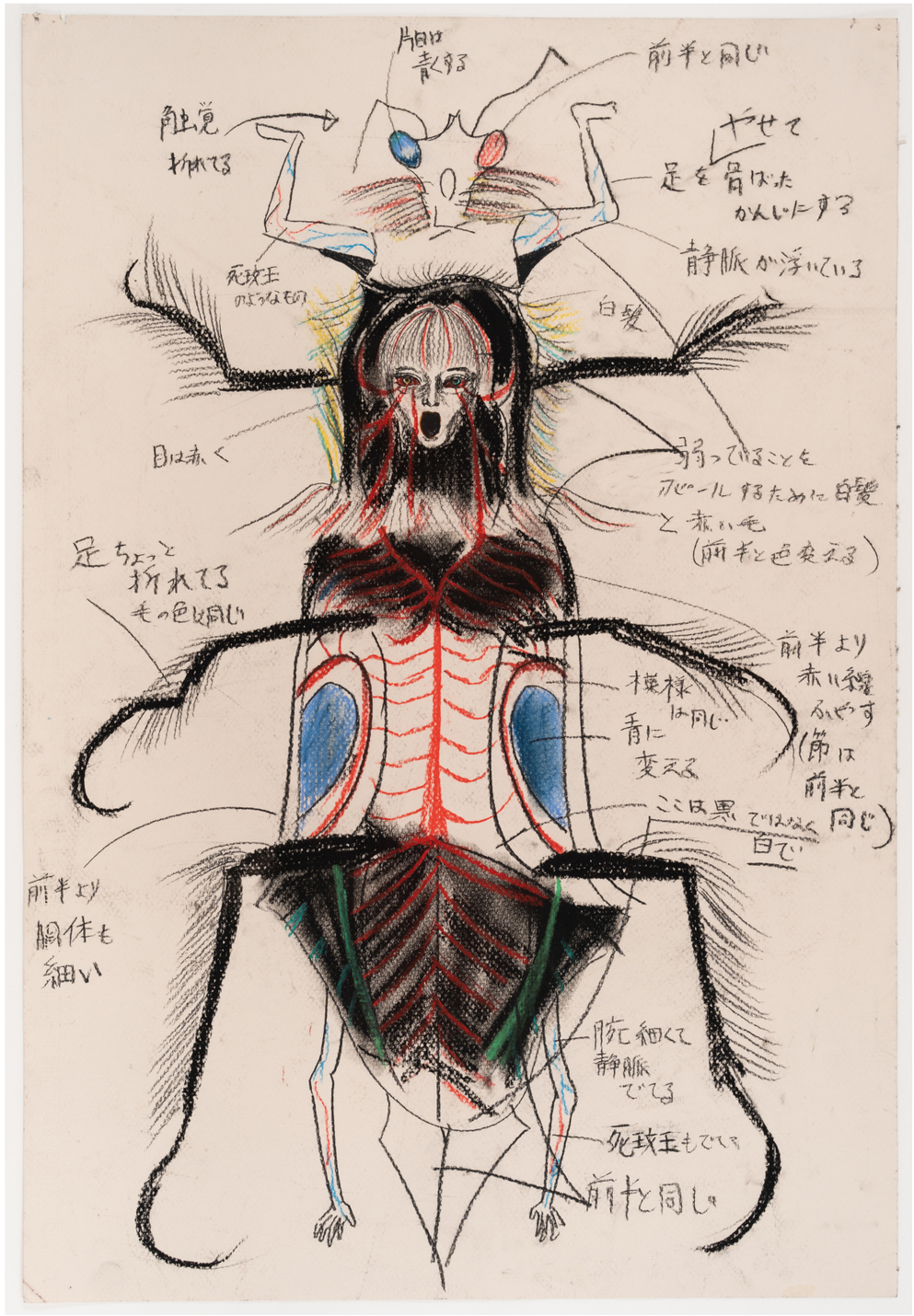
Our Lives

ベルベットに油彩、オイルパステル、グリッター
Oil, oil pastel, glitter on velvet
38.3 × 45.6 cm, 2024 （結城座の「変身」の 2024 年再演時に、演出仕掛けのための原画）



「変身」のためのドローイング、グレゴール・ザムザ
Drawing for Metamorphosis, Gregor Samsa

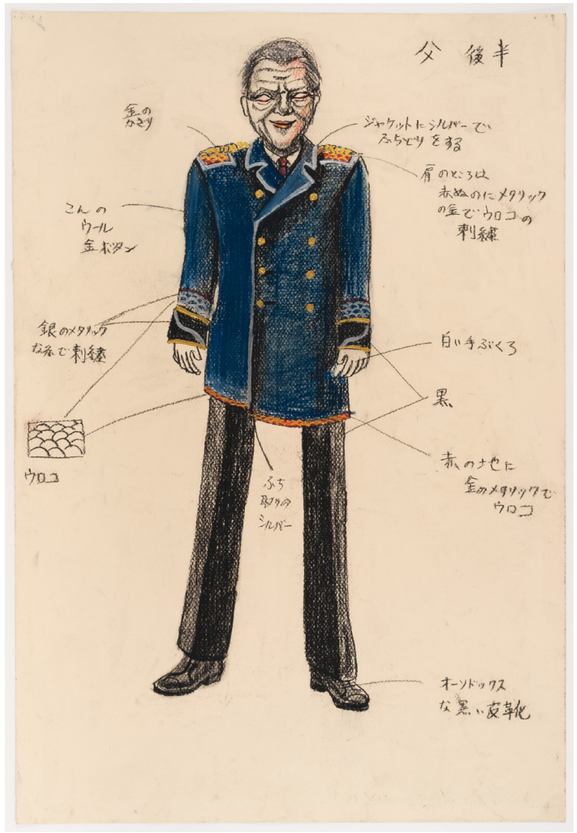
紙にパステル、チャコール、アクリル、グリッター
Pastel, charcoal, acrylic, glitter on paper
55 × 37.5 cm, 2022

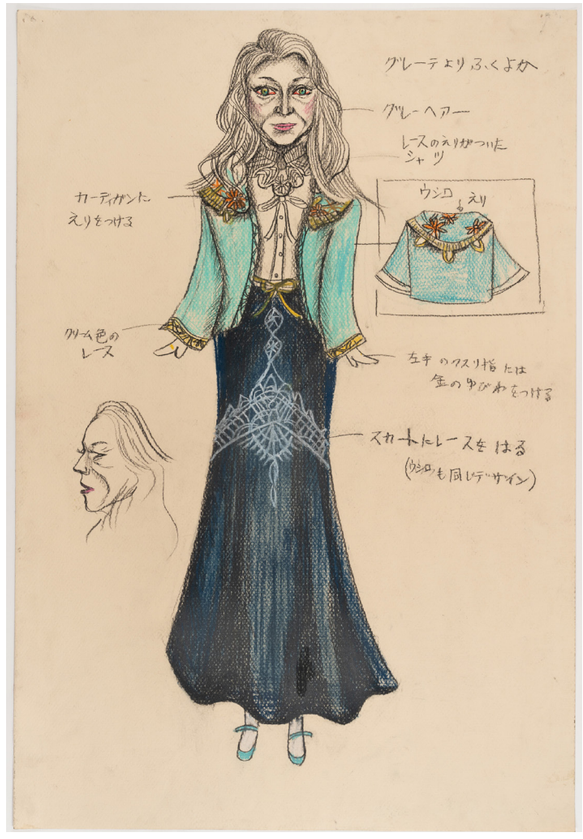


「変身」のためのドローイング、死の際のグレゴール
Drawing for Metamorphosis, Gregor at Death

紙にチャコール、パステル
Charcoal, pastel on paper
55 × 37.5 cm, 2022









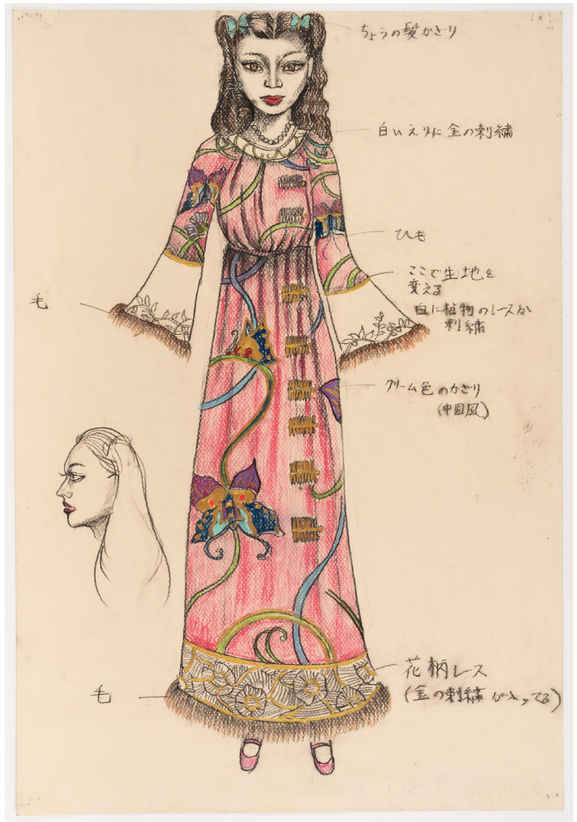
「変身」のためのドローイング、父親（前半）、（後半）
Drawing for Metamorphosis, Father (First act.) / (Second act.)

紙にパステル、チャコール、アクリル
Pastel, acrylic on paper
55 × 38 cm each, 2022

「変身」のためのドローイング、母親（前半）、（後半）
Drawing for Metamorphosis, Mother (First act.) / (Second act.)

紙にパステル、チャコール、アクリル
Pastel, acrylic on paper
55 × 38 cm each, 2022





「変身」のためのドローイング、グレーテ（前半）、（後半）
Drawing for Metamorphosis, Grete (First act.) / (Second act.)

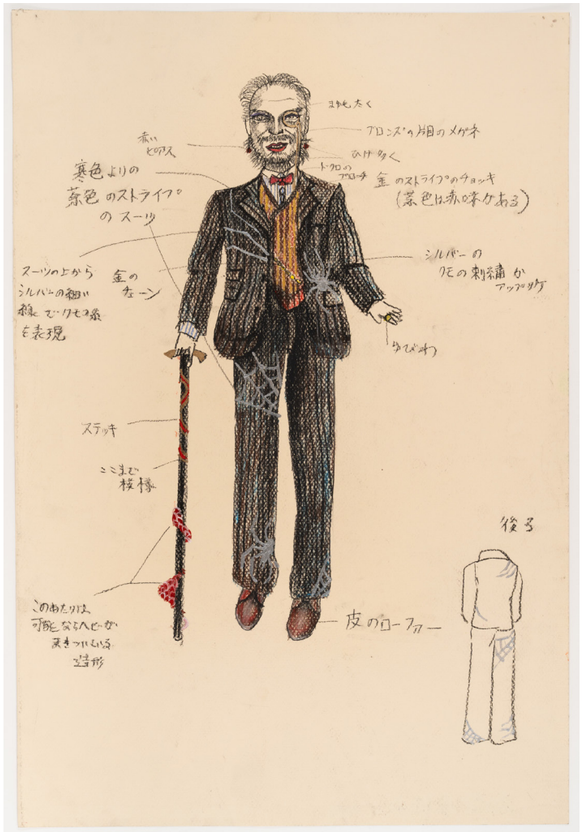
紙にパステル、チャコール、アクリル
Pastel, acrylic on paper
55 × 38 cm each, 2022





「変身」のためのドローイング、女中アンナ / 家政婦
Drawing for Metamorphosis, Anne the Maid / Housekeeper

紙にパステル、チャコール、アクリル
Pastel, acrylic on paper
55 × 38 cm each, 2022





「変身」のためのドローイング、下宿人 / グレゴールの上司
Drawing for Metamorphosis, Boarder / Gregor's Boss

紙にパステル、チャコール、アクリル
Pastel, acrylic on paper
55 × 38 cm each, 2022





グループ展「創造と破壊の閃光」展
会期｜ 2025 年 5 月 14 日 – 6 月 15 日
会場｜ GYRE GALLERY
出展作家｜草間彌生、三島喜美代、坂上チユキ、谷原菜摘子
主催｜ジャイルギャラリー / スクールデレック芸術社会学研究所、企画・構成｜飯田高誉、写真｜幸田森





グループ展「創造と破壊の閃光」展
会期｜ 2025 年 5 月 14 日 – 6 月 15 日
会場｜ GYRE GALLERY
出展作家｜草間彌生、三島喜美代、坂上チユキ、谷原菜摘子
主催｜ジャイルギャラリー / スクールデレック芸術社会学研究所、企画・構成｜飯田高誉、写真｜幸田森



方舟はもう現れない
The Ark Shall Not Return

ベルベットに油彩、アクリル、オイルパステル、グリッター、ラインストーン
Oil, acrylic, oil pastel, glitter, rhinestone on velvet
180 × 180 cm, 2025



愛惜の部屋
The Room of Loving Regret

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター
Oil, glitter, acrylic on velvet
73.2 × 51.6 cm, 2025



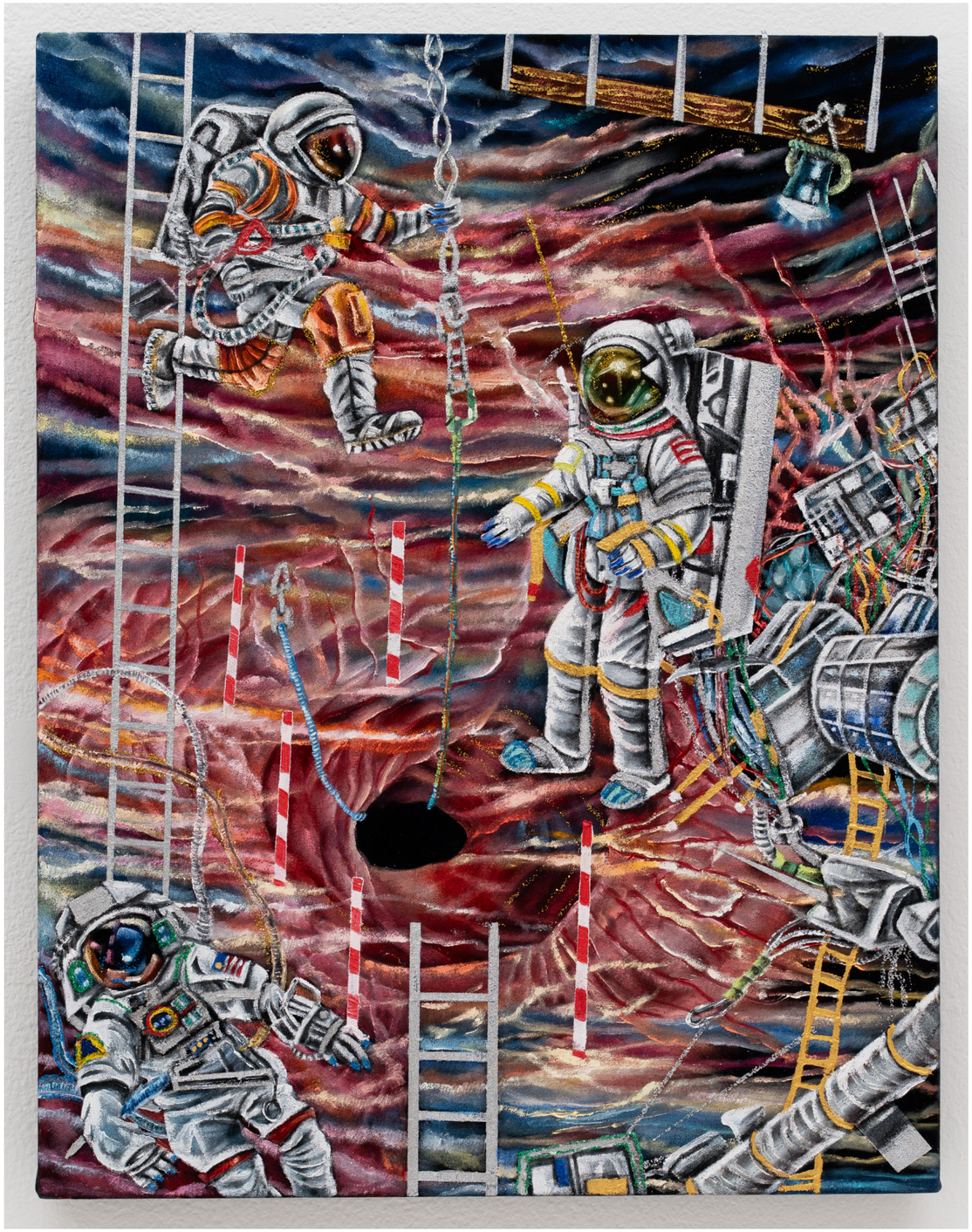
蝋燭の火を消さなければ
So Long as the Flame Remains

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター
Oil, glitter, acrylic on velvet
33.5 × 45.5 cm, 2025



Don’t Dress Me in White

ベルベットに油彩、グリッター、ラインストーン
Oil, glitter, rhinestone on velvet
30 × 30v cm, 2025



夕焼けは一つの有機体
The Evening Glow is an Organism

ベルベットに油彩、アクリル、グリッター
Oil, glitter, acrylic on velvet
41 × 32 cm, 2024



世界の軸が変わった日
The Day When the Earth's Axis Shifted

ベルベットに油彩、グリッター、ラインストーン
Oil, glitter, rhinestone on velvet
72.8 × 53 cm, 2025